

第6次川島町総合振興計画策定のための
町民アンケート

中間報告

埼玉県信用金庫

信金中央金庫

1. アンケート調査結果

(1) 調査概要

- 調査期間：2020年9月24日（木）～2020年10月8日（木）
（前回：2015年7月1日（水）～2015年7月17日（金））
- 対象：18歳以上の町民から無作為に2,000人を抽出
（前回：町内在住の18～49歳の方1,000人、町内在住の50歳以上の方1,000人の計2,000人を無作為抽出）
- 方法：郵送にて送付、Web上での回答もしくは郵送で回収
（前回：郵送配付・回収）
- 回収数：857票（Web回答：266、郵送：591）
（前回：805票（18～49歳：279票、50歳以上：526票））
- 回収率：42.9%
（前回：40.3%（18～49歳：27.9%、50歳以上：52.6%））

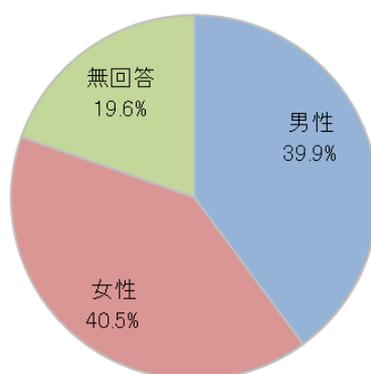
(2) 調査結果

◆あなたご自身のことについて

問1 あなた自身について項目ごとにあてはまる番号を選んでください。（それぞれ1つに○）

(1) 性別

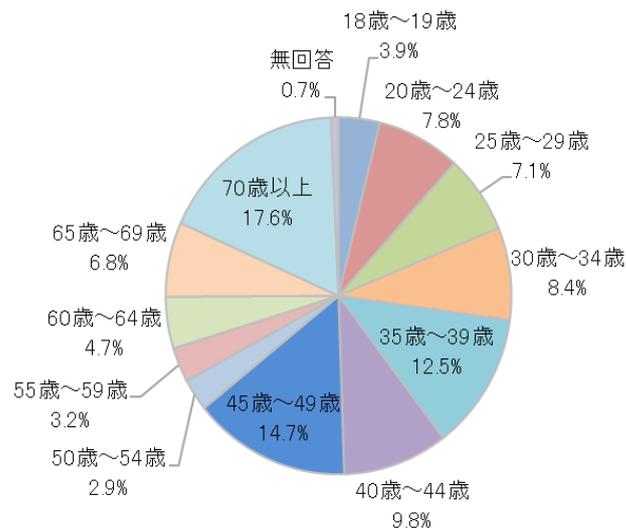
- 性別は「男性」が39.9%、「女性」が40.5%
- 前回より男性の回答割合が高まり、女性が低下。無回答も増加（表で示している結果の左が今回の回答、右が前回の回答。以下同じ。）



		今回		前回	
		N	%	N	%
1	男性	342	39.9	298	37.0
2	女性	347	40.5	380	47.2
	無回答	168	19.6	127	15.8
	全体	857	100.0	805	100.0

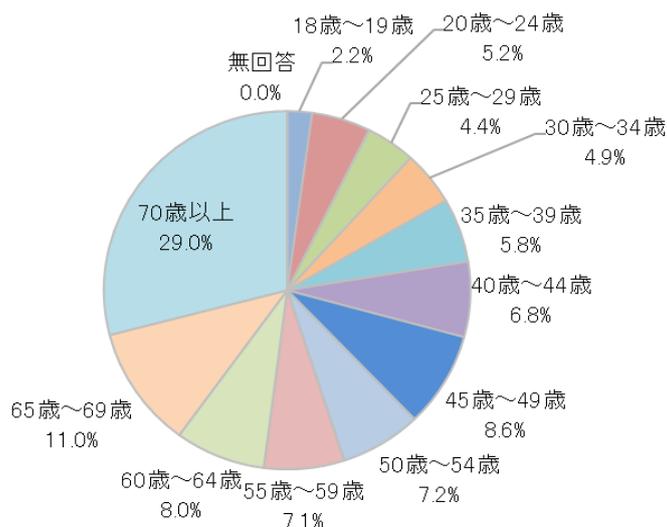
(2) 年齢

- 年齢は「70歳以上」が17.6%と最も多く、次いで「45～49歳」の14.7%、「35～39歳」の12.5%と続く。
- 前回に比べて10歳代から40歳代の回答割合が増加している。一方で、50歳代、60歳代の回答割合が減少している。70歳代の回答割合は大幅に増えている。
- 調査票にQRコードを付することでWeb回答できるようにしたことが影響していると思われる。



		今回		前回	
		N	%	N	%
1	18歳～19歳	33	3.9	9	1.1
2	20歳～24歳	67	7.8	25	3.1
3	25歳～29歳	61	7.1	29	3.6
4	30歳～34歳	72	8.4	42	5.2
5	35歳～39歳	107	12.5	51	6.3
6	40歳～44歳	84	9.8	68	8.4
7	45歳～49歳	126	14.7	53	6.6
8	50歳～54歳	25	2.9	71	8.8
9	55歳～59歳	27	3.2	88	10.9
10	60歳～64歳	40	4.7	123	15.3
11	65歳～69歳	58	6.8	170	21.1
12	70歳以上	151	17.6	72	8.9
	無回答	6	0.7	4	0.5
	全体	857	100.0	805	100.0

- 今回の回答者の年齢構成を町全体の構成と比較すると、20歳代から40歳代の若年層の回答割合が高く、50歳代から70歳以上の中高年層の回答割合が低くなっており、回答傾向がやや若年層よりであるといえる。

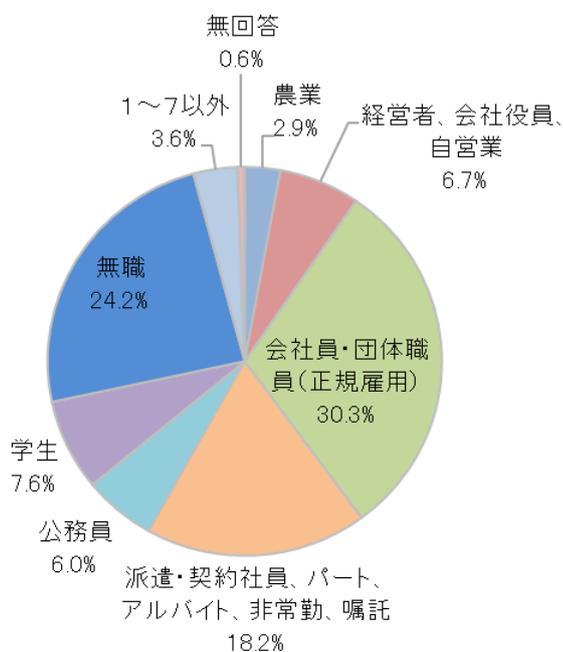


	今回		前回	
	N	%	N	%
1 18歳～19歳	33	3.9	379	2.2
2 20歳～24歳	67	7.8	896	5.2
3 25歳～29歳	61	7.1	761	4.4
4 30歳～34歳	72	8.4	856	4.9
5 35歳～39歳	107	12.5	1,003	5.8
6 40歳～44歳	84	9.8	1,180	6.8
7 45歳～49歳	126	14.7	1,497	8.6
8 50歳～54歳	25	2.9	1,228	7.2
9 55歳～59歳	27	3.2	1,233	7.1
10 60歳～64歳	40	4.7	1,388	8.0
11 65歳～69歳	58	6.8	1,907	11.0
12 70歳以上	151	17.6	5,049	29.1
無回答	6	0.7		
全体	857	100.0	17,377	100.0

(3) 主な職業

- 主な職業は「会社員・団体職員」が30.3%と最も多く、次いで「無職」が24.2%、「派遣・契約社員、パート、アルバイト、非常勤、嘱託」が18.2%と続く。

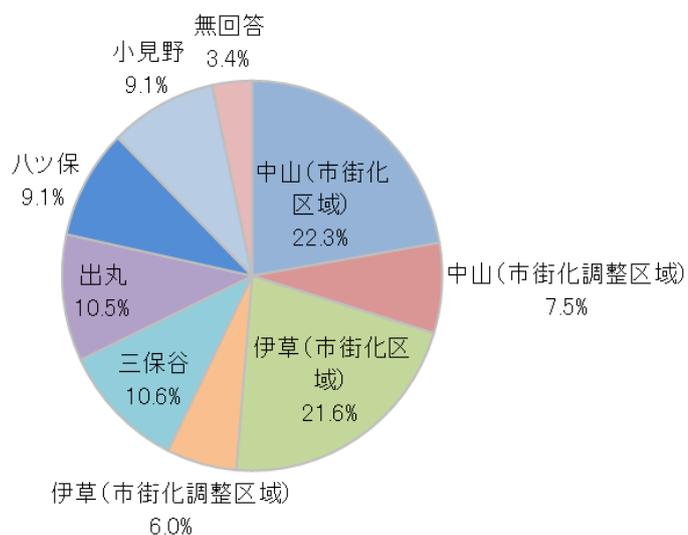
- 前回調査と比べて会社員等や学生の割合が高くなっている。一方で農業者や経営者の回答割合が大きく減少している。（回答している年齢層と関係があると思われる。）
- 農業については、農業従事者が減少している可能性もある。



	今回		前回	
	N	%	N	%
1 農業	25	2.9	58	7.2
2 経営者、会社役員、自営業	57	6.7	84	10.4
3 会社員・団体職員(正規雇用)	260	30.3	187	23.2
4 派遣・契約社員、パート、アルバイト、非常勤、嘱託	156	18.2	164	20.4
5 公務員	51	6.0	35	4.3
6 学生	65	7.6	15	1.9
7 無職	207	24.2	220	27.3
8 1～7以外	31	3.6	36	4.5
無回答	5	0.6	6	0.7
全体	857	100.0	805	100.0

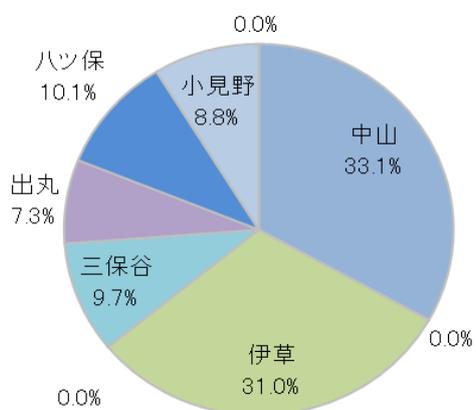
(4) 居住地区

- 居住地区は「中山（市街化区域）」が22.3%、「伊草（市街化区域）」が21.6%が多く、次いで「三保谷」が10.6%、「出丸」が10.5%と続く。
- 前回調査結果と比べても大きな変動は確認できない。



		今回		前回	
		N	%	N	%
1	中山(市街化区域)	191	22.3	166	20.6
2	中山(市街化調整区域)	64	7.5	51	6.3
3	伊草(市街化区域)	185	21.6	158	19.6
4	伊草(市街化調整区域)	51	6.0	41	5.1
5	三保谷	91	10.6	91	11.3
6	出丸	90	10.5	91	11.3
7	八ツ保	78	9.1	87	10.8
8	小見野	78	9.1	88	10.9
	無回答	29	3.4	32	4.0
	全体	857	100.0	805	100.0

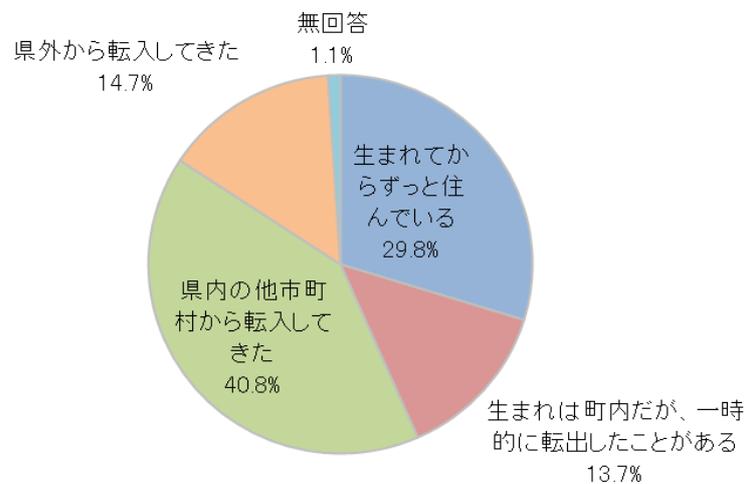
- 今回の回答者の居住地構成を町全体の構成と比較すると、多少プラスマイナスはある地区があるものの、おおむね大きな乖離は見られない。



		今回		前回	
		N	%	N	%
1	中山(市街化区域)	191	22.3	6,406	33.1
2	中山(市街化調整区域)	64	7.5		
3	伊草(市街化区域)	185	21.6	6,001	31.0
4	伊草(市街化調整区域)	51	6.0		
5	三保谷	91	10.6	1,873	9.7
6	出丸	90	10.5	1,420	7.3
7	八ツ保	78	9.1	1,964	10.1
8	小見野	78	9.1	1,714	8.8
	無回答	29	3.4		
	全体	857	100.0	19,378	100.0

(5) 居住歴

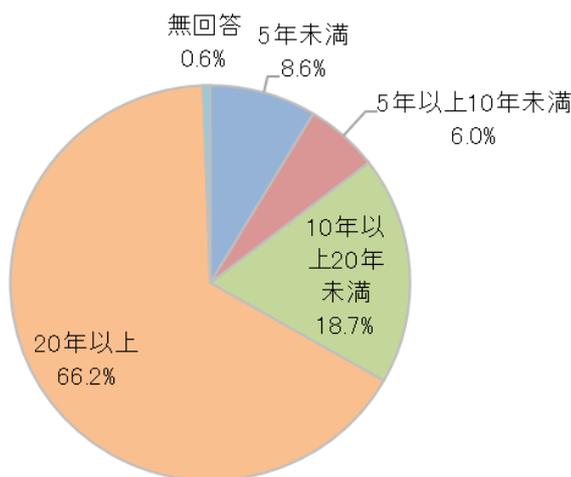
- 居住歴は「県内の他市町村から転入してきた」が40.8%と最も多く、次いで「生まれてからずっと住んでいる」が29.8%、「県外から転入してきた」が14.7%、「生まれは町内だが、一時的に転出したことがある」が13.7%と続く。
- こちらも前回調査と比較して大きな変動は確認できない。



		今回		前回	
		N	%	N	%
1	生まれてからずっと住んでいる	255	29.8	238	29.6
2	生まれは町内だが、一時的に転出したことがある	117	13.7	128	15.9
3	県内の他市町村から転入してきた	350	40.8	321	39.9
4	県外から転入してきた	126	14.7	113	14.0
	無回答	9	1.1	5	0.6
	全体	857	100.0	805	100.0

(6) 居住年数（合計）

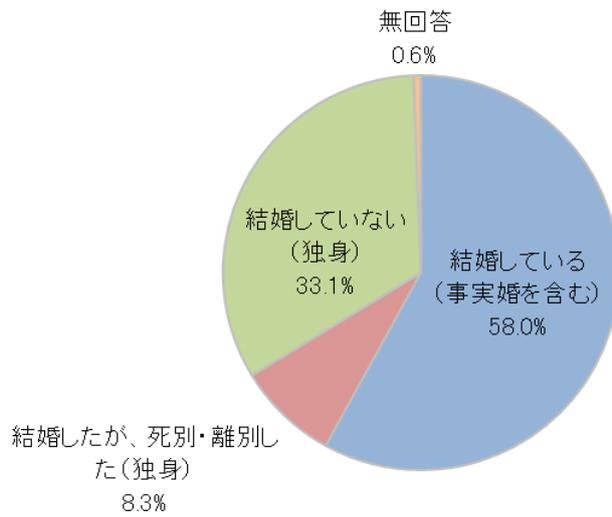
- 居住年数（合計）は「20年以上」が66.2%と最も多く、次いで「10年以上20年未満」が18.7%と続き、居住年数の長い回答者の割合が多い。
- 前回の調査と比較して「20年以上」の回答者割合が減少し、「5年未満」の回答割合が増えているものの、大きな変動は確認できない。



	今回		前回	
	N	%	N	%
1 5年未満	74	8.6	37	4.6
2 5年以上10年未満	51	6.0	36	4.5
3 10年以上20年未満	160	18.7	109	13.5
4 20年以上	567	66.2	614	76.3
無回答	5	0.6	9	1.1
全体	857	100.0	805	100.0

(7) 結婚

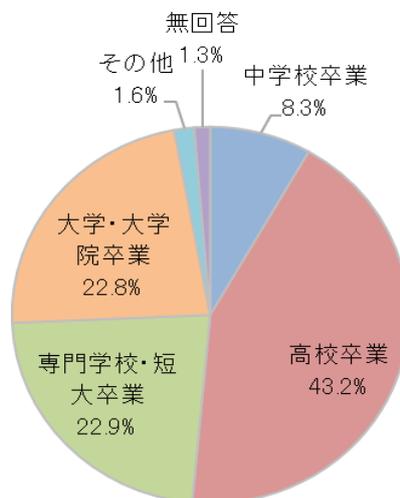
- 婚姻状況は「結婚している」が58.0%であり、「結婚していない（独身）」が33.1%となっている。
- 前回と比べて結婚しているとの回答割合が大きく減少し、独身（結婚していない、結婚したが死別・離別した）の回答割合が大きく増加している。
- 町内の未婚率が上がり、非婚者が増加している可能性がある。



	今回		前回	
	N	%	N	%
1 結婚している(事実婚を含む)	497	58.0	624	77.5
2 結婚したが、死別・離別した(独身)	71	8.3	60	7.5
3 結婚していない(独身)	284	33.1	115	14.3
無回答	5	0.6	6	0.7
全体	857	100.0	805	100.0

(8) 最終学歴

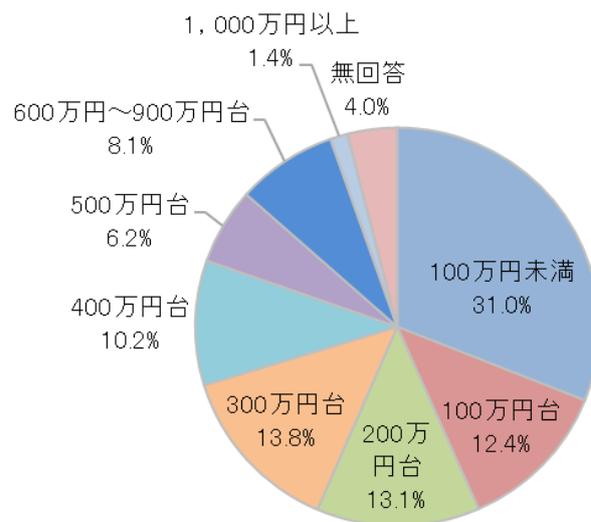
- 最終学歴は「高校卒業」が43.3%と最も多く、次いで、「大学・大学院卒業」が22.7%、「専門学校・短大卒業」が22.6%と続く。
- 前回と比べて大学等卒業の割合が若干増えているものの、大きな変動は確認できない。



		今回		前回	
		N	%	N	%
1	中学校卒業	71	8.3	94	11.7
2	高校卒業	370	43.2	380	47.2
3	専門学校・短大卒業	196	22.9	165	20.5
4	大学・大学院卒業	195	22.8	149	18.5
5	その他	14	1.6	10	1.2
	無回答	11	1.3	7	0.9
	全体	857	100.0	805	100.0

(9) 昨年（令和元年）の年収

- 昨年の年収は「100万円未満」が31.0%と最も多く、次いで「300万円台」が13.8%、「200万円台」が13.1%と続く。
- 前回調査に比べて400万円台の回答割合が増えているものの、大きな変動は確認できない。
- 各選択肢の中間値を用いて平均年収を算定してみると、今回の調査では283.0万円となり、前回の277.0万円から2.2%程度上昇している。



		今回		前回	
		N	%	N	%
1	100万円未満	266	31.0	256	31.8
2	100万円台	106	12.4	109	13.5
3	200万円台	112	13.1	107	13.3
4	300万円台	118	13.8	101	12.5
5	400万円台	87	10.2	62	7.7
6	500万円台	53	6.2	40	5.0
7	600万円～900万円台	69	8.1	70	8.7
8	1,000万円以上	12	1.4	14	1.7
	無回答	34	4.0	46	5.7
	全体	857	100.0	805	100.0

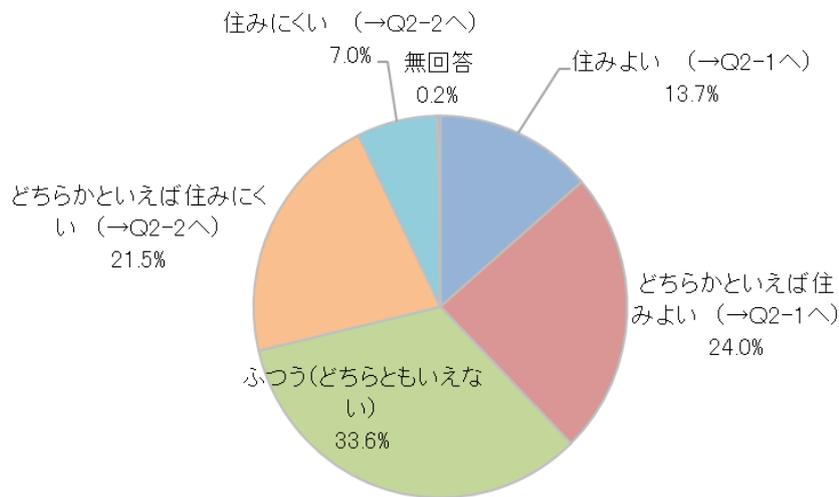
- 職業別の年収を見ると、所得が高いのは公務員 526.4 万円、経営者等 464.3 万円、会社員 437.1 万円となっている。低いのは学生 53.2 万円、無職 133.7 万円（年金受給者が相当数含まれていると思われる。）、農業 242.0 万円となっている。
- 平均所得は必ずしも高くない農業ではあるが、400 万円以上稼ぐ農家も 20%以上見られる。

職業	年収	全体	100万円未満	100万円台	200万円台	300万円台	400万円台	500万円台	600万円~900万円台	1,000万円以上
全体		857	266	106	112	118	87	53	69	12
		100.0	31.0	12.4	13.1	13.8	10.2	6.2	8.1	1.4
農業		25	6	6	4	4	3	2	0	0
		100.0	24.0	24.0	16.0	16.0	12.0	8.0	0	0
経営者、会社役員、 自営業		57	5	5	9	9	8	4	11	5
		100.0	8.8	8.8	15.8	15.8	14.0	7.0	19.3	8.8
会社員・団体職員 (正規雇用)		260	7	10	38	72	52	39	35	5
		100.0	2.7	3.8	14.6	27.7	20.0	15.0	13.5	1.9
派遣・契約社員、 パート、アルバイト		156	64	40	32	15	2	0	1	0
		100.0	41.0	25.6	20.5	9.6	1.3	0	0.6	0
公務員		51	2	1	1	9	13	7	18	0
		100.0	3.9	2.0	2.0	17.6	25.5	13.7	35.3	0
学生		65	57	4	0	0	0	0	0	0
		100.0	87.7	6.2	0	0	0	0	0	0
無職		207	108	34	26	8	7	0	3	2
		100.0	52.2	16.4	12.6	3.9	3.4	0	1.4	1.0
1~7以外		31	16	5	2	1	2	1	1	0
		100.0	51.6	16.1	6.5	3.2	6.5	3.2	3.2	0

◆川島町のことについて

問2 まち全体の印象についておたずねします。あなたにとって、川島町は住みよいまちですか。（1つに〇）

- まち全体の印象については「ふつう」が33.6%と最も多く、次いで「どちらかといえば住みよい」が24.0%、「どちらかといえば住みにくい」が21.5%と続く。
- 前回調査と比べると「住みよい」、「どちらかといえば住みよい」、「ふつう」が増えており、「住みにくい」、「どちらかといえば住みにくい」は減っている。
- 今回は「住みよい」+「どちらかといえば住みよい」が37.7%、「住みにくい」+「どちらかといえば住みにくい」が28.5%であり、住みやすいとの評価が10ポイント程度高い。前は住みやすいが31.7%、住みにくいが33.5%であったのと比べると、評価が逆転している。
- 住みよい=5、どちらかといえば住みよい=4、ふつう=3、どちらかといえば住みにくい=2、住みにくい=1として住みよさを指数化すると今回の調査は3.2で、前回の3.0より上昇している。



	今回		前回	
	N	%	N	%
1 住みよい (→Q2-1へ)	117	13.7	86	10.7
2 どちらかといえば住みよい (→Q2-1へ)	206	24.0	169	21.0
3 ふつう(どちらともいえない)	288	33.6	246	30.6
4 どちらかといえば住みにくい (→Q2-2へ)	184	21.5	209	26.0
5 住みにくい (→Q2-2へ)	60	7.0	60	7.5
無回答	2	0.2	35	4.3
全体	857	100.0	805	100.0

- この回答を年齢階層別に見ると 24 歳以下と 50 歳代後半から 60 歳代後半が住みやすいとの回答が低く、住みにくいとの回答が高くなっている。
- 一方で 30 歳代から 50 歳代前半は住みやすいとの回答が高くなっていて、特に 30 歳代前半と 50 歳代前半の住みやすさに関する評価が高くなっている。
- ちなみに住みやすさの指数をみると、低いのは 10 歳代後半 2.3、20 歳代前半 2.6、60 歳代前半 3.0 であり、高いのは 50 歳代前半 3.4、30 歳代前半 3.4、40 歳代前半 3.3 となっている。

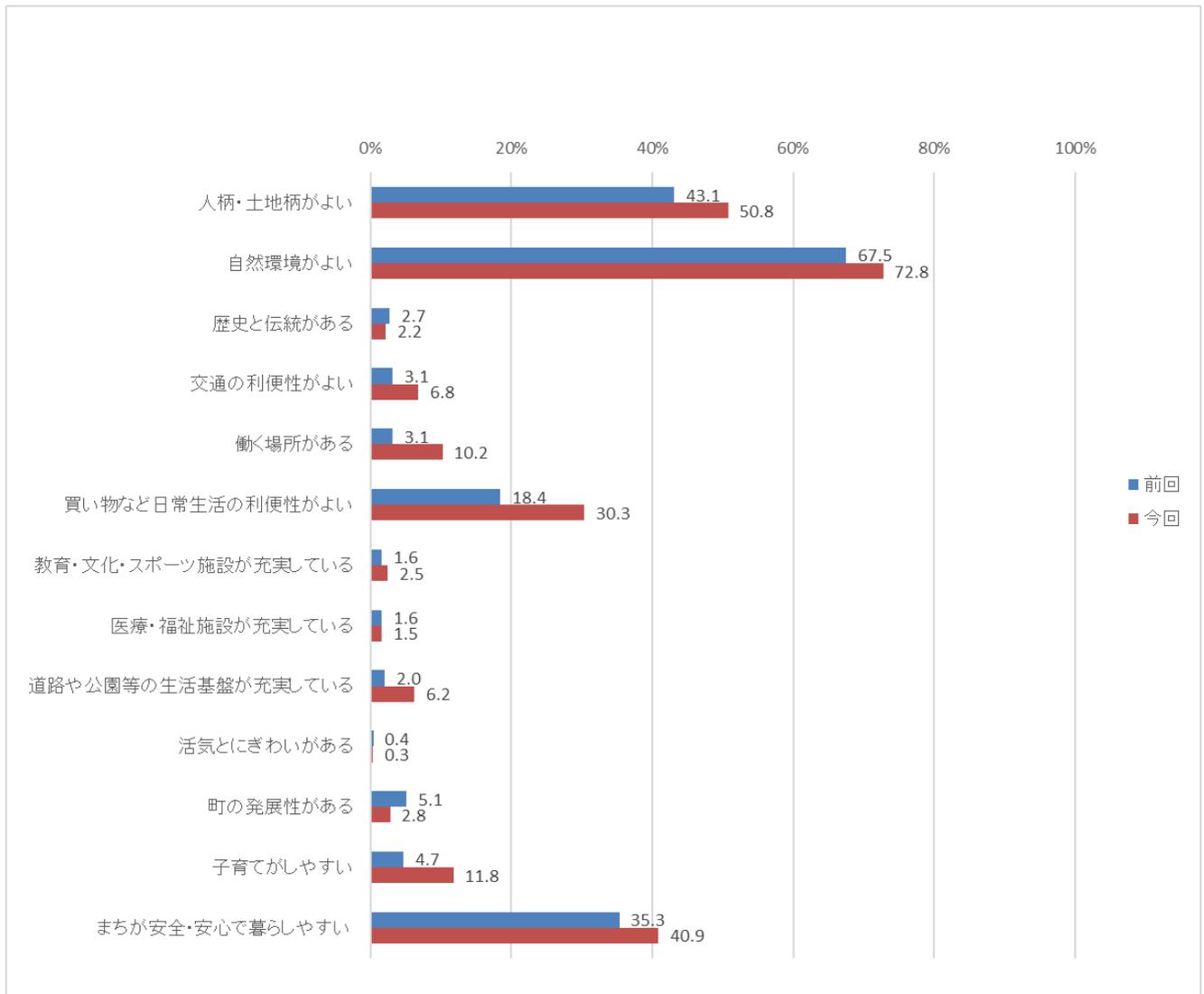
住みよさ 年齢	全体	住みよい	どちらかとい えば住みよい	ふつう(どちら ともいえない)	どちらかとい えば住みにく	住みにくい
全体	857	117	206	288	184	60
	100.0	13.7	24.0	33.6	21.5	7.0
18歳～19歳	33	2	2	9	11	9
	100.0	6.1	6.1	27.3	33.3	27.3
20歳～24歳	67	6	8	19	21	13
	100.0	9.0	11.9	28.4	31.3	19.4
25歳～29歳	61	8	15	22	15	1
	100.0	13.1	24.6	36.1	24.6	1.6
30歳～34歳	72	11	24	21	11	5
	100.0	15.3	33.3	29.2	15.3	6.9
35歳～39歳	107	17	25	31	23	11
	100.0	15.9	23.4	29.0	21.5	10.3
40歳～44歳	84	14	24	22	23	1
	100.0	16.7	28.6	26.2	27.4	1.2
45歳～49歳	126	20	32	37	31	6
	100.0	15.9	25.4	29.4	24.6	4.8
50歳～54歳	25	3	8	11	2	1
	100.0	12.0	32.0	44.0	8.0	4.0
55歳～59歳	27	4	4	12	5	2
	100.0	14.8	14.8	44.4	18.5	7.4
60歳～64歳	40	3	8	16	11	1
	100.0	7.5	20.0	40.0	27.5	2.5
65歳～69歳	58	6	17	26	7	2
	100.0	10.3	29.3	44.8	12.1	3.4
70歳以上	151	22	38	60	23	8
	100.0	14.6	25.2	39.7	15.2	5.3

- この回答を居住地別に見ると伊草は住みやすいとの回答が高く、住みにくいとの回答が低くなっている。
- 一方で、小学校が廃校となった出丸と小見野は住みやすいとの回答が低くなっていて住みにくいとの回答が高くなっている。
- ちなみに住みやすさの指数をみると、高いのは伊草（市街化区域）3.4、伊草（市街化調整区域）3.3、中山（市街化区域）3.2 であり、低いのは小見野 2.8、出丸 2.9 となっている。

住みよさ 居住地	全体	住みよい	どちらかとい えば住みよい	ふつう(どちら ともいえない)	どちらかとい えば住みにく	住みにくい
全体	857	117	206	288	184	60
	100.0	13.7	24.0	33.6	21.5	7.0
中山(市街化 区域)	191	21	57	68	34	11
	100.0	11.0	29.8	35.6	17.8	5.8
中山(市街化 調整区域)	64	10	13	20	13	8
	100.0	15.6	20.3	31.3	20.3	12.5
伊草(市街化 区域)	185	34	48	64	31	8
	100.0	18.4	25.9	34.6	16.8	4.3
伊草(市街化 調整区域)	51	6	14	19	10	2
	100.0	11.8	27.5	37.3	19.6	3.9
三保谷	91	15	18	33	19	5
	100.0	16.5	19.8	36.3	20.9	5.5
出丸	90	14	12	25	29	10
	100.0	15.6	13.3	27.8	32.2	11.1
八ツ保	78	10	23	21	17	7
	100.0	12.8	29.5	26.9	21.8	9.00
小見野	78	4	16	24	26	8
	100.0	5.1	20.5	30.8	33.3	10.3

問2-1 問2で「1 住みよい」または「2 どちらかといえば住みよい」に○をつけた方のみお答えください。住みよい主な理由は何ですか。(主なもの3つまでに○)

- 住みよい主な理由については「自然環境がよい」が72.8%と最も多く、次いで「人柄・土地柄がよい」が50.8%、「まちが安全・安心で暮らしやすい」が40.9%、「買い物など日常生活の利便性がよい」が30.3%と続いている。
- 前回と比べても順位に大きな変化はないが、「買い物など日常生活の利便性がよい」が12ポイント、「働く場所がある」が7ポイント、「子育てがしやすい」が7ポイント増加しているなど、全体的に各項目の評価が高くなっている。(ただし付ける○の数が2から3に増えていることも影響していると考えられる。)



		今回		前回	
		N	%	N	%
1	人柄・土地柄がよい	164	50.8	110	43.1
2	自然環境がよい	235	72.8	172	67.5
3	歴史と伝統がある	7	2.2	7	2.7
4	交通の利便性がよい	22	6.8	8	3.1
5	働く場所がある	33	10.2	8	3.1
6	買い物など日常生活の利便性がよい	98	30.3	47	18.4
7	教育・文化・スポーツ施設が充実している	8	2.5	4	1.6
8	医療・福祉施設が充実している	5	1.5	4	1.6
9	道路や公園等の生活基盤が充実している	20	6.2	5	2.0
10	活気にぎわいがある	1	0.3	1	0.4
11	町の発展性がある	9	2.8	13	5.1
12	子育てがしやすい	38	11.8	12	4.7
13	まちが安全・安心で暮らしやすい	132	40.9	90	35.3
	全体	323	100.0	255	100.0

- 住みやすい理由を年齢別にみると、働く場所があるの回答が20歳代から30歳代前半で高くなっているほか、30歳代から40歳代では子育てがしやすいの評価も高い。
- 60歳代では回答の多い人柄がよいや自然環境がよいの回答割合が高くなっている。
- それ以外には大きな特徴は確認できない。

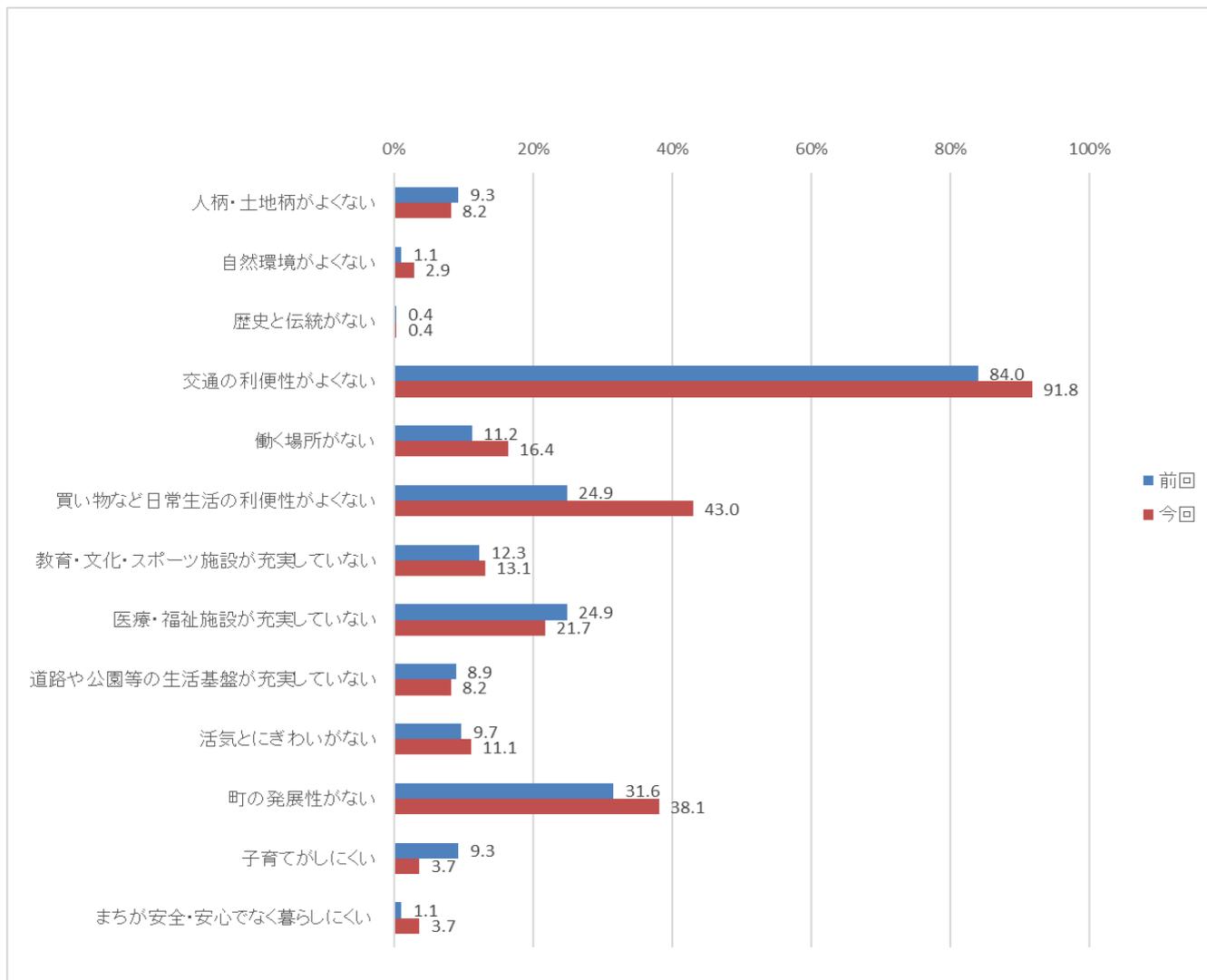
理由 年齢	全体	人柄・土地柄 がよい	自然環境がよ い	歴史と伝統が ある	交通の利便性 がよい	働く場所があ る	買い物など日 常生活の利便	教育・文化・ス ポーツ施設が	医療・福祉施 設が充実して	道路や公園等 の生活基盤が	活気にぎわ いがある	町の発展性が ある	子育てがしや すい	まちが安全・ 安心で暮らし
全体	323	164	235	7	22	33	98	8	5	20	1	9	38	132
	100.0	50.8	72.8	2.2	6.8	10.2	30.3	2.5	1.5	6.2	0.3	2.8	11.8	40.9
18歳～19歳	4	3	3	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	1
	100.0	75.0	75.0	0	0	0	50.0	0	0	0	0	25.0	0	25.0
20歳～24歳	14	8	12	0	0	2	3	0	0	4	0	1	2	8
	100.0	57.1	85.7	0	0	14.3	21.4	0	0	28.6	0	7.1	14.3	57.1
25歳～29歳	23	9	13	1	3	5	10	0	0	4	1	0	1	9
	100.0	39.1	56.5	4.3	13	21.7	43.5	0	0	17.4	4.3	0	4.3	39.1
30歳～34歳	35	17	24	0	3	8	11	1	0	1	0	1	8	11
	100.0	48.6	68.6	0	8.6	22.9	31.4	2.9	0	2.9	0	2.9	22.9	31.4
35歳～39歳	42	25	32	0	0	3	10	0	0	3	0	0	10	13
	100.0	59.5	76.2	0	0	7.1	23.8	0	0	7.1	0	0	23.8	31
40歳～44歳	38	18	28	1	6	1	12	1	0	0	0	0	5	19
	100.0	47.4	73.7	2.6	15.8	2.6	31.6	2.6	0	0	0	0	13.2	50
45歳～49歳	52	21	40	1	2	6	12	1	1	2	0	2	7	23
	100.0	40.4	76.9	1.9	3.8	11.5	23.1	1.9	1.9	3.8	0	3.8	13.5	44.2
50歳～54歳	11	5	7	0	2	2	5	0	0	1	0	0	2	4
	100.0	45.5	63.6	0	18.2	18.2	45.5	0	0	9.1	0	0	18.2	36.4
55歳～59歳	8	6	6	1	0	0	3	1	0	0	0	0	0	3
	100.0	75.0	75.0	12.5	0	0	37.5	12.5	0	0	0	0	0	37.5
60歳～64歳	11	8	9	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	5
	100.0	72.7	81.8	0	0	0	9.1	0	0	0	0	9.1	0	45.5
65歳～69歳	23	12	20	3	2	1	9	2	1	1	0	1	1	11
	100.0	52.2	87.0	13.0	8.7	4.3	39.1	8.7	4.3	4.3	0	4.3	4.3	47.8
70歳以上	60	31	40	0	4	4	19	2	3	4	0	2	2	25
	100.0	51.7	66.7	0	6.7	6.7	31.7	3.3	5	6.7	0	3.3	3.3	41.7

- 住みやすい理由を居住地別にみると、買い物などの日常生活の利便性に関しては、中山、伊草が高くなっている一方、三保谷、出丸、八ツ保、小見野では低い。
- 伊草では交通利便性や働く場所に関する回答割合が高い。
- 道路などの生活基盤に関しては、中山が高くなっている。

住みよさ 居住地	全体	人柄・土地柄 がよい	自然環境がよ い	歴史と伝統が ある	交通の利便性 がよい	働く場所があ る	買い物など日 常生活の利便	教育・文化・ス ポーツ施設が	医療・福祉施 設が充実して	道路や公園等 の生活基盤が	活気とにぎわ いがある	町の発展性が ある	子育てがしや すい	まちが安全・ 安心で暮らし
全体	323	164	235	7	22	33	98	8	5	20	1	9	38	132
	100.0	50.8	72.8	2.2	6.8	10.2	30.3	2.5	1.5	6.2	0.3	2.8	11.8	40.9
中山(市街化 区域)	78	28	60	4	3	10	32	1	1	8	0	3	11	35
	100.0	35.9	76.9	5.1	3.8	12.8	41.0	1.3	1.3	10.3	0	3.8	14.1	44.9
中山(市街化 調整区域)	23	11	17	0	2	2	10	2	0	3	0	0	1	8
	100.0	47.8	73.9	0	8.7	8.7	43.5	8.7	0	13.0	0	0	4.3	34.8
伊草(市街化 区域)	82	37	43	2	12	13	37	2	2	2	0	1	14	23
	100.0	45.1	52.4	2.4	14.6	15.9	45.1	2.4	2.4	2.4	0	1.2	17.1	28
伊草(市街化 調整区域)	20	11	14	0	2	2	5	0	0	0	0	0	1	9
	100.0	55.0	70.0	0	10.0	10.0	25.0	0	0	0	0	0	5.0	45.0
三保谷	33	24	25	0	0	1	4	0	0	2	0	1	4	12
	100.0	72.7	75.8	0	0	3	12.1	0	0	6.1	0	3	12.1	36.4
出丸	26	17	23	1	1	2	0	0	0	0	1	1	1	16
	100.0	65.4	88.5	3.8	3.8	7.7	0	0	0	0	3.8	3.8	3.8	61.5
八ツ保	33	20	30	0	0	1	4	3	2	3	0	2	2	15
	100.0	60.6	90.9	0	0	3	12.1	9.1	6.1	9.1	0	6.1	6.1	45.5
小見野	20	14	18	0	1	0	2	0	0	0	0	0	4	12
	100.0	70.0	90.0	0	5.0	0	10.0	0	0	0	0	0	20.0	60.0

問2-2 問2で「4 どちらかといえば住みにくい」または「5 住みにくい」に○をつけた方のみお答えください。住みにくい主な理由は何ですか。（主なもの3つまでに○）

- 住みにくい主な理由については「交通の利便性がよくない」が91.8%と最も多く、次いで「買い物など日常生活の利便性がよくない」が43.0%、「町の発展性がない」が38.1%、「医療・福祉施設が充実していない」が21.7%と続く。
- 前回と比べても順位に大きな変化はないが、「買い物など日常生活の利便性がよい」が18ポイント増加しているなど、全体的に各項目の評価が高くなっている。（ただしこちらにも付ける○の数が2から3に増えていることも影響していると考えられる。）
- その中で「医療・福祉施設が充実していない」や「子育てがしにくい」は回答割合が減少しており、住みにくさの要因としては解消の方向にあると思われる。



		今回		前回	
		N	%	N	%
1	人柄・土地柄がよくない	20	8.2	25	9.3
2	自然環境がよくない	7	2.9	3	1.1
3	歴史と伝統がない	1	0.4	1	0.4
4	交通の利便性がよくない	224	91.8	226	84.0
5	働く場所がない	40	16.4	30	11.2
6	買い物など日常生活の利便性がよくない	105	43.0	67	24.9
7	教育・文化・スポーツ施設が充実していない	32	13.1	33	12.3
8	医療・福祉施設が充実していない	53	21.7	67	24.9
9	道路や公園等の生活基盤が充実していない	20	8.2	24	8.9
10	活気とにぎわいがない	27	11.1	26	9.7
11	町の発展性がない	93	38.1	85	31.6
12	子育てがしにくい	9	3.7	25	9.3
13	まちが安全・安心でなく暮らしにくい	9	3.7	3	1.1
	全体	244	100.0	269	100.0

- 住みにくい理由を年齢別にみると、60歳以上では買い物などの日常生活の不便さや医療・福祉施設への不満が高くなっている。
- 20歳代では働く場所や教育等施設、子育てなどへの不満が高くなっている。

理由 年齢	全体	人柄・土地柄 がよくない	自然環境がよ くない	歴史と伝統が ない	交通の利便性 がよくない	働く場所がな い	買い物など日 常生活の利便	教育・文化・ス ポーツ施設が	医療・福祉施 設が充実して	道路や公園等 の生活基盤が	活気とにぎわ いが少ない	町の発展性が ない	子育てがしに くい	まちが安全・ 安心でなく暮
全体	244	20	7	1	224	40	105	32	53	20	27	93	9	9
	100.0	8.2	2.9	0.4	91.8	16.4	43	13.1	21.7	8.2	11.1	38.1	3.7	3.7
18歳～19歳	20	0	0	0	20	3	7	5	3	2	1	8	0	0
	100.0	0	0	0	100.0	15.0	35.0	25.0	15.0	10.0	5.0	40.0	0	0
20歳～24歳	34	0	2	0	33	7	17	6	4	1	6	7	1	0
	100.0	0	5.9	0	97.1	20.6	50	17.6	11.8	2.9	17.6	20.6	2.9	0
25歳～29歳	16	0	0	0	13	5	4	3	5	2	1	7	2	1
	100.0	0	0	0	81.3	31.3	25.0	18.8	31.3	12.5	6.3	43.8	12.5	6.3
30歳～34歳	16	2	2	1	14	2	6	2	3	0	2	9	1	0
	100.0	12.5	12.5	6.3	87.5	12.5	37.5	12.5	18.8	0	12.5	56.3	6.3	0
35歳～39歳	34	5	0	0	30	7	14	8	6	4	4	12	3	1
	100.0	14.7	0	0	88.2	20.6	41.2	23.5	17.6	11.8	11.8	35.3	8.8	2.9
40歳～44歳	24	2	0	0	24	4	9	0	8	1	3	8	0	1
	100.0	8.3	0	0	100.0	16.7	37.5	0	33.3	4.2	12.5	33.3	0	4.2
45歳～49歳	37	5	1	0	36	6	14	3	7	4	5	16	1	2
	100.0	13.5	2.7	0	97.3	16.2	37.8	8.1	18.9	10.8	13.5	43.2	2.7	5.4
50歳～54歳	3	0	0	0	3	0	2	0	0	1	1	2	0	0
	100.0	0	0	0	100.0	0	66.7	0	0	33.3	33.3	66.7	0	0
55歳～59歳	7	0	0	0	7	0	2	1	3	2	0	5	0	0
	100.0	0	0	0	100.0	0	28.6	14.3	42.9	28.6	0	71.4	0	0
60歳～64歳	12	0	1	0	11	2	7	2	2	2	1	4	1	1
	100.0	0	8.3	0	91.7	16.7	58.3	16.7	16.7	16.7	8.3	33.3	8.3	8.3
65歳～69歳	9	2	0	0	6	2	5	1	2	0	2	5	0	0
	100.0	22.2	0	0	66.7	22.2	55.6	11.1	22.2	0	22.2	55.6	0	0
70歳以上	31	4	1	0	26	2	18	1	10	1	1	9	0	3
	100.0	12.9	3.2	0	83.9	6.5	58.1	3.2	32.3	3.2	3.2	29	0	9.7

- 住みにくい理由を居住地別にみると、三保谷、出丸、ハツ保、小見野では買い物などの日常生活への不便さの割合が高い。中山、伊草では医療・福祉施設への不満が高くなっている。
- 出丸では道路や公園等の生活基盤への不満も高くなっている。

理由 居住地	全体	人柄・土地柄 がよくない	自然環境がよ くない	歴史と伝統が ない	交通の利便性 がよくない	働く場所がな い	買い物など日 常生活の利便	教育・文化・ス ポーツ施設が	医療・福祉施 設が充実して	道路や公園等 の生活基盤が	活気とにぎわ いがない	町の発展性が ない	子育てがしに くい	まちが安全・ 安心でなく暮
全体	244	20	7	1	224	40	105	32	53	20	27	93	9	9
	100.0	8.2	2.9	0.4	91.8	16.4	43	13.1	21.7	8.2	11.1	38.1	3.7	3.7
中山(市街化 区域)	45	2	1	0	41	6	12	9	12	5	9	13	1	2
	100.0	4.4	2.2	0	91.1	13.3	26.7	20	26.7	11.1	20	28.9	2.2	4.4
中山(市街化 調整区域)	21	1	2	0	18	5	7	4	7	2	2	8	2	3
	100.0	4.8	9.5	0	85.7	23.8	33.3	19	33.3	9.5	9.5	38.1	9.5	14.3
伊草(市街化 区域)	39	4	2	0	36	7	10	7	11	4	1	17	2	2
	100.0	10.3	5.1	0	92.3	17.9	25.6	17.9	28.2	10.3	2.6	43.6	5.1	5.1
伊草(市街化 調整区域)	12	2	0	0	10	2	6	1	0	0	3	4	0	0
	100.0	16.7	0	0	83.3	16.7	50.0	8.3	0	0	25	33.3	0	0
三保谷	24	2	1	0	23	2	9	0	4	1	3	11	1	1
	100.0	8.3	4.2	0	95.8	8.3	37.5	0	16.7	4.2	12.5	45.8	4.2	4.2
出丸	39	4	1	1	36	7	22	1	5	7	5	19	1	0
	100.0	10.3	2.6	2.6	92.3	17.9	56.4	2.6	12.8	17.9	12.8	48.7	2.6	0
ハツ保	24	2	0	0	23	6	17	4	3	0	1	10	0	0
	100.0	8.3	0	0	95.8	25	70.8	16.7	12.5	0	4.2	41.7	0	0
小見野	34	3	0	0	31	4	22	5	9	1	3	8	2	1
	100.0	8.8	0	0	91.2	11.8	64.7	14.7	26.5	2.9	8.8	23.5	5.9	2.9

- 問 2-1 と問 2-2 の設問は項目別に表裏の関係にあるため、各項目に住みやすさの回答割合と住みにくさの回答割合を比較した。(差は住みやすさ－住みにくさ)
- その結果、プラスが大きいのは「自然環境」「人柄・土地柄」「まちが安全・安心」であり、マイナスが大きいのは「交通の利便性」「町の発展性」「医療・福祉施設」となり、それぞれ川島町での住みやすさ・住みにくさに大きな影響を与えているといえる。
- 一方、双方の回答割合が高く結果としてマイナス幅が小さいのが「買い物など日常生活の利便性」である。要因としては商業地が集積しさらに促進しており、集積地では評価が高く、遠隔地では評価が低いことが想定される。

	住みやすい	住みにくい	差
人柄・土地柄	50.80%	8.20%	42.60%
自然環境	72.80%	2.90%	69.90%
歴史と伝統	2.20%	0.40%	1.80%
交通の利便性	6.80%	91.80%	-85.00%
働く場所	10.20%	16.40%	-6.20%
買い物など日常生活の利便性	30.30%	43.00%	-12.70%
教育・文化・スポーツ施設が充実	2.50%	13.10%	-10.60%
医療・福祉施設が充実	1.50%	21.70%	-20.20%
道路や公園等の生活基盤が充実	6.20%	8.20%	-2.00%
活気とにぎわい	0.30%	11.10%	-10.80%
町の発展性	2.80%	38.10%	-35.30%
子育て	11.80%	3.70%	8.10%
まちが安全・安心	40.90%	3.70%	37.20%

- これを年齢別に整理すると、住みよさを決めている要因の「自然環境」「人柄・土地柄」「まちが安全・安心」は全年代でプラスであり、住みにくさを決めている要因の「交通の利便性」「町の発展性」「医療・福祉施設」もほぼ全年代でマイナスとなっている。
- その中で「働く場所」と「買い物などの日常生活の利便性」、「道路や公園等の生活基盤」は年代によってばらつきがみられ、「働く場所」は30歳代前半と50歳代前半は比較的プラス評価が高いが、60歳代以上ではマイナス評価が高くなっている。
- 「日常生活の利便性」は20歳代後半は比較的プラス評価が高いが、60歳代前半のマイナス評価が高くなっている。
- 「生活基盤」については20歳代前半は比較的プラス評価が高いが、50歳代のマイナス評価が高くなっている。
- 「子育て」については子育て期だと思われる30歳代や40歳代前半のプラス評価が高くなっている。

理由 年齢	人柄・土地柄	自然環境	歴史と伝統	交通の利便性	働く場所	買い物など日常生活の利便	教育・文化・スポーツ施設	医療・福祉施設	道路や公園等の生活基盤	活気にぎわい	町の発展性	子育て	まちが安全・安心
18歳～19歳	75.0	75.0	0.0	-100.0	-15.0	15.0	-25.0	-15.0	-10.0	-5.0	-15.0	0.0	25.0
20歳～24歳	57.1	79.8	0.0	-97.1	-6.3	-28.6	-17.6	-11.8	25.7	-17.6	-13.5	11.4	57.1
25歳～29歳	39.1	56.5	4.3	-68.3	-9.6	18.5	-18.8	-31.3	4.9	-2.0	-43.8	-8.2	32.8
30歳～34歳	36.1	56.1	-6.3	-78.9	10.4	-6.1	-9.6	-18.8	2.9	-12.5	-53.4	16.6	31.4
35歳～39歳	44.8	76.2	0.0	-88.2	-13.5	-17.4	-23.5	-17.6	-4.7	-11.8	-35.3	15.0	28.1
40歳～44歳	39.1	73.7	2.6	-84.2	-14.1	-5.9	2.6	-33.3	-4.2	-12.5	-33.3	13.2	45.8
45歳～49歳	26.9	74.2	1.9	-93.5	-4.7	-14.7	-6.2	-17.0	-7.0	-13.5	-39.4	10.8	38.8
50歳～54歳	45.5	63.6	0.0	-81.8	18.2	-21.2	0.0	0.0	-24.2	-33.3	-66.7	18.2	36.4
55歳～59歳	75.0	75.0	12.5	-100.0	0.0	8.9	-1.8	-42.9	-28.6	0.0	-71.4	0.0	37.5
60歳～64歳	72.7	73.5	0.0	-91.7	-16.7	-49.2	-16.7	-16.7	-16.7	-8.3	-24.2	-8.3	37.2
65歳～69歳	30.0	87.0	13.0	-58.0	-17.9	-16.5	-2.4	-17.9	4.3	-22.2	-51.3	4.3	47.8
70歳以上	38.8	63.5	0.0	-77.2	0.2	-26.4	0.1	-27.3	3.5	-3.2	-25.7	3.3	32.0

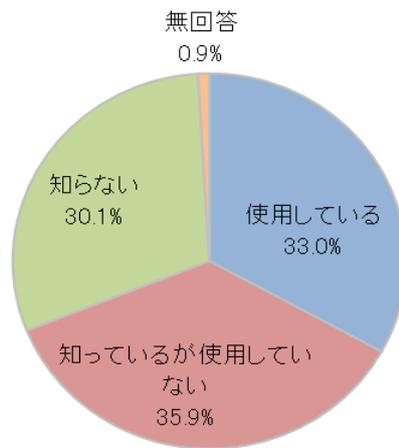
- これを居住地別に整理すると、こちらも住みよさを決めている要因の「自然環境」「人柄・土地柄」「まちが安全・安心」は全地区でプラスであり、住みにくさを決めている要因の「交通の利便性」「町の発展性」「医療・福祉施設」もほぼ全地区でマイナスとなっている。
- その中で「買い物などの日常生活の利便性」と「道路や公園等の生活基盤」は地区によってばらつきがみられ、「日常生活の利便性」は中山や伊草では比較的プラス評価が高いが、その他の地区ではマイナス評価が高くなっている。特に小見野ではマイナスが大きくなっている。
- 「生活基盤」については中山では比較的プラス評価が高いが、小見野ではマイナス評価が高くなっている。

理由 居住地	人柄・土地柄	自然環境	歴史と伝統	交通の利便性	働く場所	買い物など日常生活の利便	教育・文化・スポーツ施設	医療・福祉施設	道路や公園等の生活基盤	活気とにぎわい	町の発展性	子育て	まちが安全・安心
中山(市街化区域)	35.9	76.9	5.1	-96.2	-2.2	6.0	-23.7	-13.7	0.3	-5.0	-36.2	14.1	44.9
中山(市街化調整区域)	47.8	68.0	0.0	-88.4	-11.9	-6.5	-8.9	-11.8	10.1	-17.6	-20.6	1.4	34.8
伊草(市街化区域)	45.1	52.4	2.4	-66.7	-15.4	20.1	-16.4	-28.9	-10.1	-6.3	-42.6	4.6	21.7
伊草(市街化調整区域)	42.5	57.5	-6.3	-77.5	-2.5	-12.5	-12.5	-18.8	0.0	-12.5	-56.3	-1.3	45.0
三保谷	58.0	75.8	0.0	-88.2	-17.6	-29.1	-23.5	-17.6	-5.7	-11.8	-32.3	3.3	33.5
出丸	57.1	88.5	3.8	-96.2	-9.0	-37.5	0.0	-33.3	-4.2	-8.7	-29.5	3.8	57.3
八ツ保	47.1	88.2	0.0	-97.3	-13.2	-25.7	1.0	-12.8	-1.7	-13.5	-37.1	3.4	40.1
小見野	70.0	90.0	0.0	-95.0	0.0	-56.7	0.0	0.0	-33.3	-33.3	-66.7	20.0	60.0

問3 町から携帯電話等に防災情報・防犯情報・その他イベント情報等が発信される「かわべえメール」、「LINE(ライン)」があります。あなたは知っていますか。

①「かわべえメール」について(1つに○)

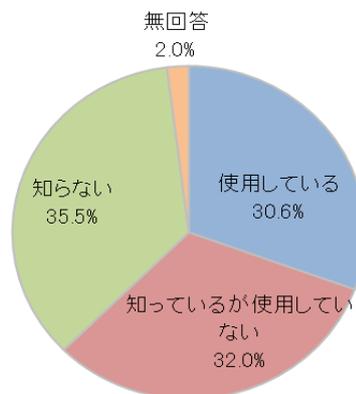
- 「かわべえメール」については「知っているが使用していない」が35.9%、「使用している」が33.0%、「知らない」が30.1%とほぼ同じ回答割合となっている。
- 前回調査と比べると「知らない」の割合が14ポイント低下している一方、使用しているが13ポイント増えており、積極的な広報等を通じて認知度・利用度とも上昇していることがうかがえる。



	今回		前回	
	N	%	N	%
1 使用している	283	33.0	159	19.8
2 知っているが使用していない	308	35.9	285	35.4
3 知らない	258	30.1	355	44.1
無回答	8	0.9	6	0.7
全体	857	100.0	805	100.0

②「LINE (ライン)」について (1つに○)

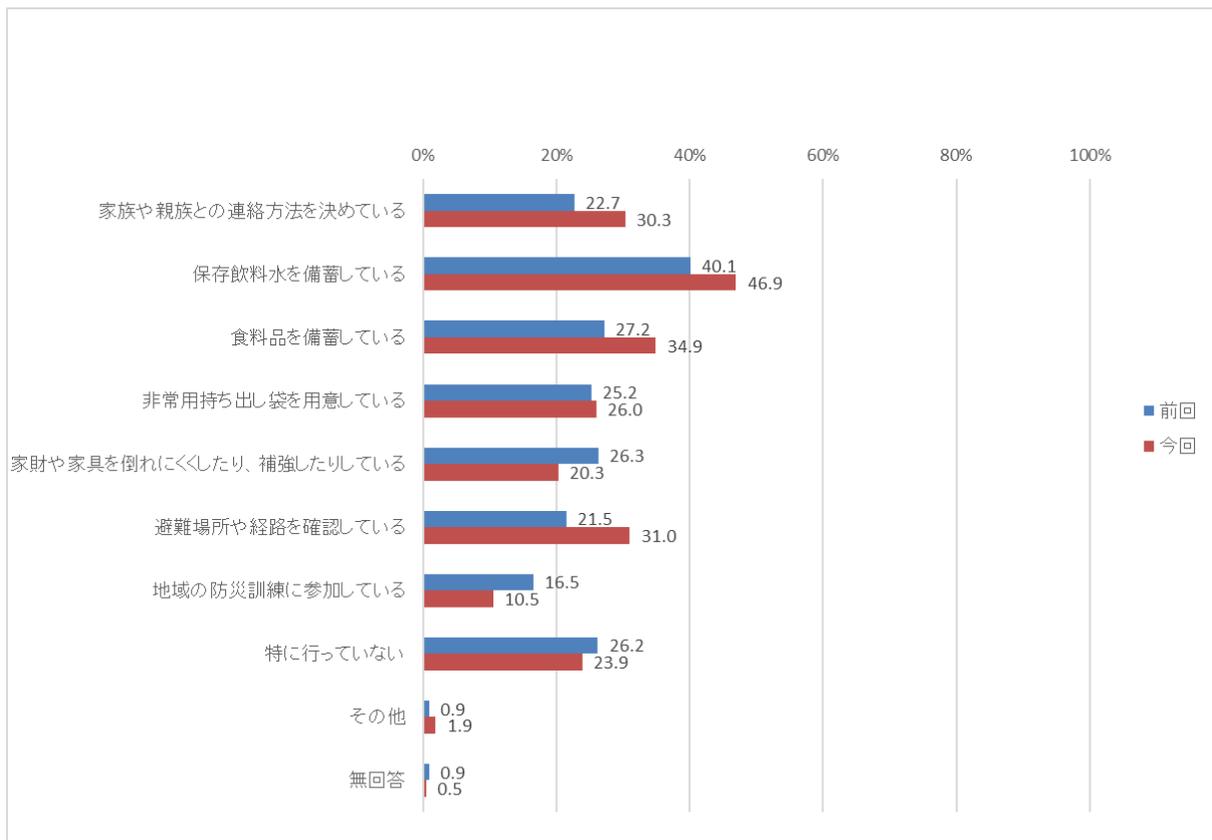
- 「ライン」については「知らない」が35.5%、「知っているが使用していない」が32.0%、「使用している」が30.6%とほぼ同じ回答割合となっている。
- かわべメールの認知度 (約70%程度) を見ると、認知度・利用度をあげる余地はありそうである。



		N	%
1	使用している	262	30.6
2	知っているが使用していない	274	32.0
3	知らない	304	35.5
	無回答	17	2.0
	全体	857	100.0

問4 あなたは日ごろから災害に備え、どのような準備を行っていますか。また、近年の災害をきっかけにして、新たに準備を始めたものはありますか。（あてはまるものすべてに○）

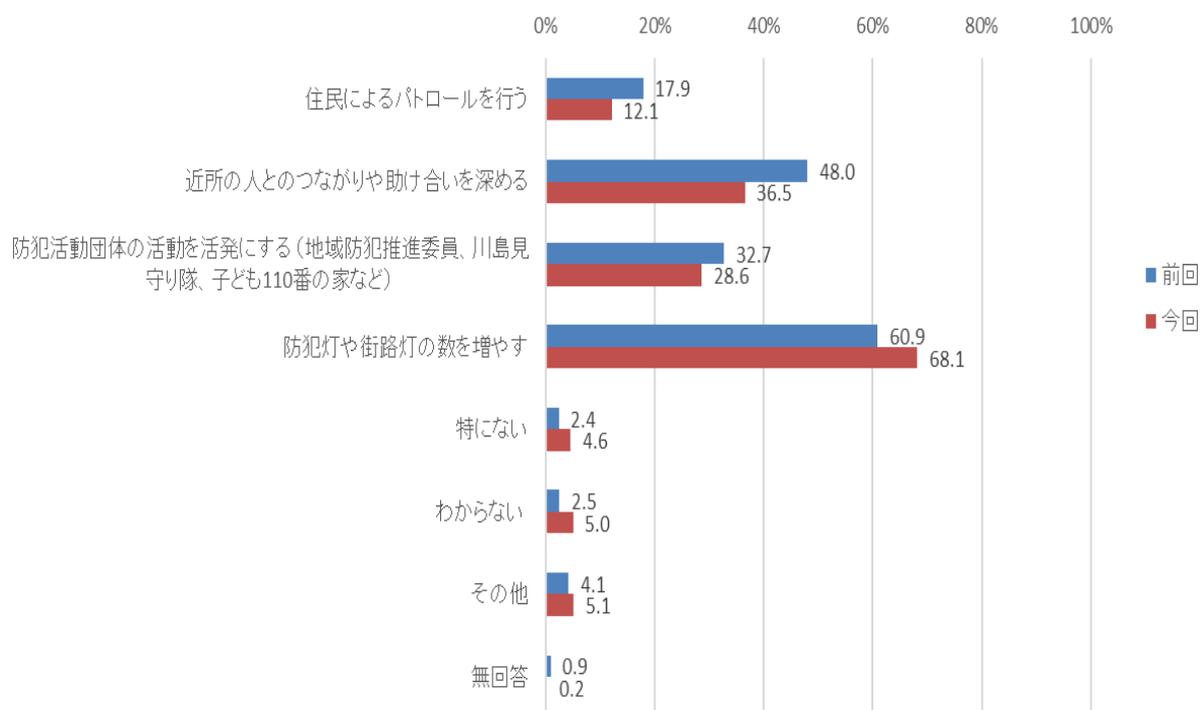
- 災害に備えた日頃からの準備については「保存飲料水を備蓄している」が46.9%と最も多く、次いで「食料品を備蓄している」が34.9%、「避難場所や経路を確認している」が31.0%、「家族や親族との連絡方法を決めている」が30.3%と続いている。
- 前回と比較すると昨年度の台風災害があったせい全体として回答割合は高まっており、災害への備えが進んでいるといえる。その中でも「避難場所や経路を確認している」が10ポイント、「食料品を備蓄している」が8ポイント、「家族や親族との連絡方法を決めている」が8ポイント増加している。水害を念頭にした準備を積極的に講じていると思われる。
- 一方で「地域の防災訓練に参加している」は6ポイント減少している。いつ起こるかわからない災害に対する地域の訓練の重要性や備えの必要性をより伝えていくことが被害を抑制するために必要である。



	今回		前回	
	N	%	N	%
1 家族や親族との連絡方法を決めている	260	30.3	183	22.7
2 保存飲料水を備蓄している	402	46.9	323	40.1
3 食料品を備蓄している	299	34.9	219	27.2
4 非常用持ち出し袋を用意している	223	26.0	203	25.2
5 家財や家具を倒れにくくしたり、補強したりしている	174	20.3	212	26.3
6 避難場所や経路を確認している	266	31.0	173	21.5
7 地域の防災訓練に参加している	90	10.5	133	16.5
8 特に行っていない	205	23.9	211	26.2
9 その他	16	1.9	7	0.9
無回答	4	0.5	7	0.9
全体	857	100.0	805	100.0

問5 あなたは、犯罪を防止するために、地域や行政がどのような取り組みをしたらよいと思いますか。（主なもの2つまでに○）

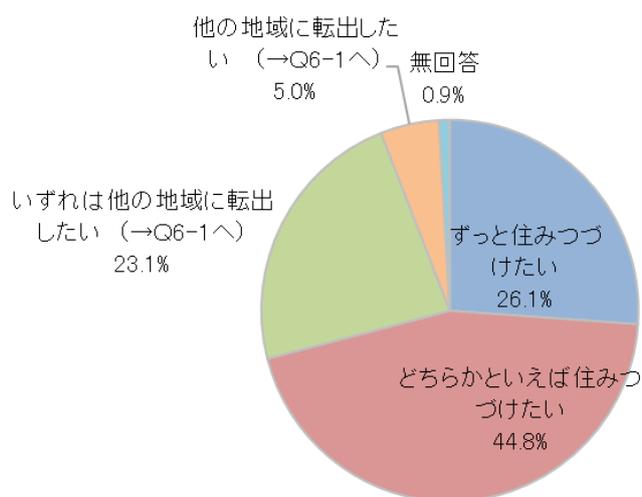
- 犯罪の防止に関して地域や行政が取り組むべきことについては「防犯灯や街路灯の数を増やす」が68.1%と最も多く、次いで「近所の人とのつながりや助け合いを深める」が36.5%、「防犯活動団体の活動を活発にする」が28.6%と続く。
- 前回と比べると「防犯灯や街路灯の数を増やす」の回答割合が増えている一方で、「住民によるパトロールを行う」や「近所の人とのつながりや助け合いを深める」、「防犯活動団体の活動を活発にする」など地域住民の活動や人とのつながりによる犯罪抑止への回答割合が減少している。



	今回		前回	
	N	%	N	%
1 住民によるパトロールを行う	104	12.1	144	17.9
2 近所の人とのつながりや助け合いを深める	313	36.5	386	48.0
3 防犯活動団体の活動を活発にする（地域防犯推進委員、川島見守り隊、子ども110番の家など）	245	28.6	263	32.7
4 防犯灯や街路灯の数を増やす	584	68.1	490	60.9
5 特にない	39	4.6	19	2.4
6 わからない	43	5.0	20	2.5
7 その他	44	5.1	33	4.1
無回答	2	0.2	7	0.9
全体	857	100.0	805	100.0

問6 あなたは、川島町にこれからも住みつづけたいと思いますか。（1つに○）

- 川島町に住み続けたいかについては「どちらかといえば住みつづけたい」が44.8%と最も多く、次いで「ずっと住みつづけたい」が26.1%、「いずれは他の地域に転出したい」が23.1%と続いている。
- 「ずっと住みつづけたい」+「どちらかといえば住みつづけたい」の回答割合は70.9%と7割以上の町民は住みつづけたいと回答しているものの、前回と比較すると3ポイント減少している。
- さらに「いずれは他の地域に転出したい」+「他の地域に転出したい」が28.1%と前回より4ポイント増加していることを考え合わせると転出意向を持つ町民が増えている可能性がある。
- 「ずっと住みつづけたい」=4、「どちらかといえば住みつづけたい」=3、「いずれは他の地域に転出したい」=2、「他の地域に転出したい」=1として指数化すると、今回の調査では2.9であり、前回の3.0より低下している。



	今回		前回	
	N	%	N	%
1 ずっと住みつづけたい	224	26.1	252	31.3
2 どちらかといえば住みつづけたい	384	44.8	342	42.5
3 いずれは他の地域に転出したい (→Q6-1へ)	198	23.1	143	17.8
4 他の地域に転出したい (→Q6-1へ)	43	5.0	50	6.2
無回答	8	0.9	18	2.2
全体	857	100.0	805	100.0

- 年齢階層別にみても、総じていうと年齢層が高い方が住み続けたいとの意向が強く、年齢層が低い方が転出意向が強い。
- 年齢階層別に指数をみると、高いのは70歳以上の3.3、50歳代前半の3.2、50歳代後半と60歳代後半の3.1である。低いのは10歳代と20歳代前半の2.4、20歳代後半の2.6、30歳代前半の2.7である。

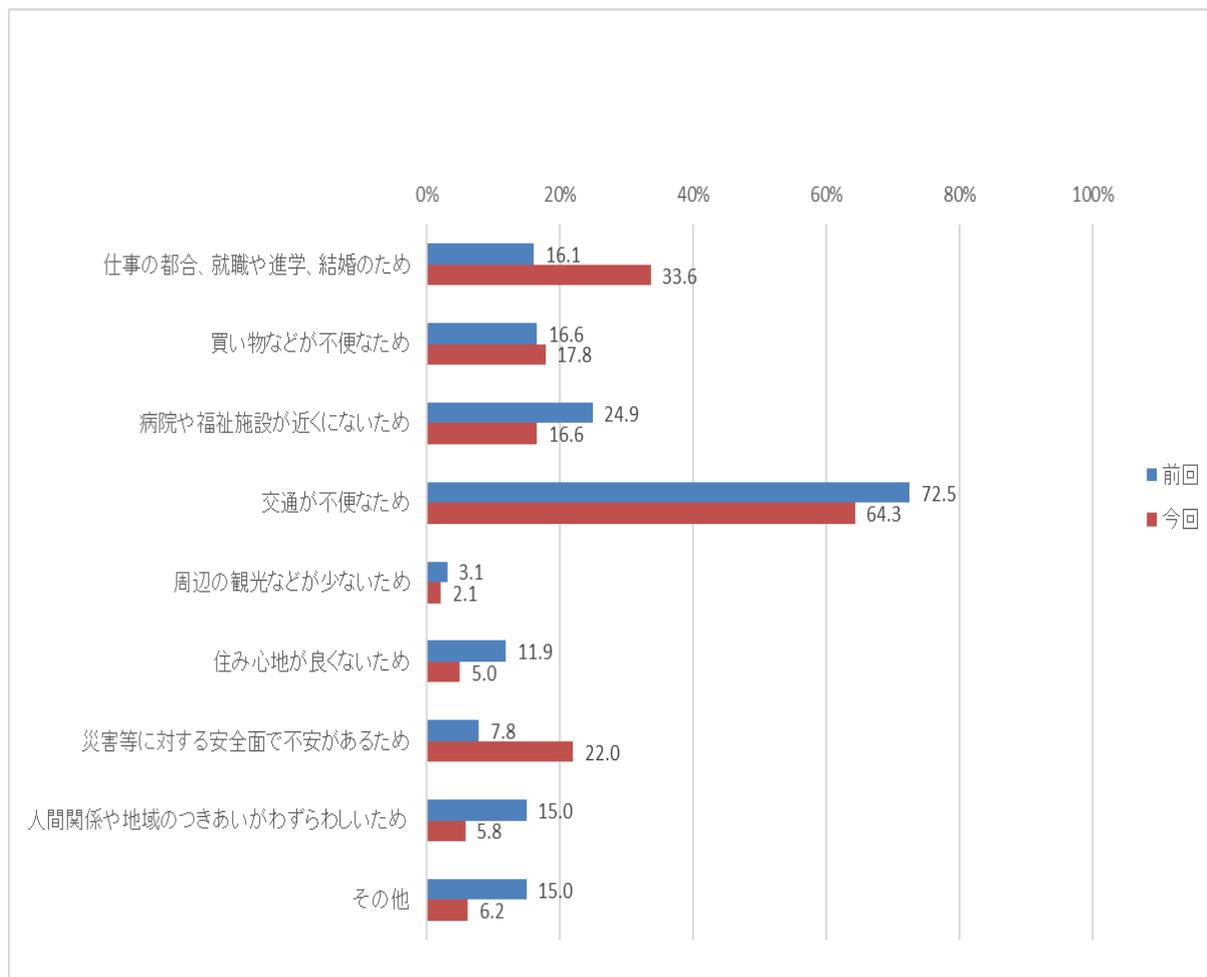
年齢	居留意向	全体	ずっと住みつづけたい	どちらかといえば住みつづけた	いずれは他の地域に転出したい	他の地域に転出したい
全体		857	224	384	198	43
		100.0	26.1	44.8	23.1	5.0
18歳～19歳		33	2	12	15	4
		100.0	6.1	36.4	45.5	12.1
20歳～24歳		67	4	21	38	4
		100.0	6.0	31.3	56.7	6.0
25歳～29歳		61	6	32	16	7
		100.0	9.8	52.5	26.2	11.5
30歳～34歳		72	13	34	20	3
		100.0	18.1	47.2	27.8	4.2
35歳～39歳		107	24	56	21	6
		100.0	22.4	52.3	19.6	5.6
40歳～44歳		84	25	36	19	3
		100.0	29.8	42.9	22.6	3.6
45歳～49歳		126	25	65	30	4
		100.0	19.8	51.6	23.8	3.2
50歳～54歳		25	8	13	4	0
		100.0	32.0	52.0	16.0	0
55歳～59歳		27	9	12	6	0
		100.0	33.3	44.4	22.2	0
60歳～64歳		40	7	23	9	0
		100.0	17.5	57.5	22.5	0
65歳～69歳		58	23	22	9	4
		100.0	39.7	37.9	15.5	6.9
70歳以上		151	76	56	10	8
		100.0	50.3	37.1	6.6	5.3

- 居住地別にみても、地区によって大きな差は認められない。
- 居住地別に指数をみると、高いのは八ツ保と中山（市街化調整区域）の3.1、出丸の3.0である。低いのは三保谷と中山（市街化区域）の2.8、伊草（市街化調整区域）の2.9である。

居住地	居留意向	全体	ずっと住みつづ けたい	どちらかといえ ば住みつづけた	いずれは他の地 域に転出したい	他の地域に転出 したい
全体		857	224	384	198	43
		100.0	26.1	44.8	23.1	5.0
中山(市街化区域)		191	44	87	47	12
		100.0	23	45.5	24.6	6.3
中山(市街化調整区 域)		64	20	30	11	3
		100.0	31.3	46.9	17.2	4.7
伊草(市街化区域)		185	49	85	42	9
		100.0	26.5	45.9	22.7	4.9
伊草(市街化調整区 域)		51	10	26	14	1
		100.0	19.6	51.0	27.5	2.0
三保谷		91	24	42	13	9
		100.0	26.4	46.2	14.3	9.9
出丸		90	26	38	22	4
		100.0	28.9	42.2	24.4	4.4
八ツ保		78	29	29	18	2
		100.0	37.2	37.2	23.1	2.6
小見野		78	19	34	21	3
		100.0	24.4	43.6	26.9	3.8

問6-1 問6で「3 いずれは他の地域に転出したい」または「4 他の地域に転出したい」に○をつけた方のみお答えください。その主な理由は何ですか。(主なもの2つまでに○)

- 他の地域に転出したい理由については「交通が不便なため」が64.3%と最も多く、次いで「仕事の都合、就職や進学、結婚のため」が33.6%、「災害等に対する安全面で不安があるから」が22.0%と続いている。
- 前回の調査と比較すると増減が大きく出ており、「人間関係や地域のつきあいがわずらわしいため」が9ポイント、「病院や福祉施設が近くにないため」が8ポイント、「交通が不便なため」が8ポイント、「住み心地が良くないため」が7ポイント減少している。
- 一方で、「仕事の都合、就職や進学、結婚のため」が18ポイント、「災害等に対する安全面で不安があるため」が14ポイントと大きく増加している。



		今回		前回	
		N	%	N	%
1	仕事の都合、就職や進学、結婚のため	81	33.6	31	16.1
2	買い物などが不便なため	43	17.8	32	16.6
3	病院や福祉施設が近くにないため	40	16.6	48	24.9
4	交通が不便なため	155	64.3	140	72.5
5	周辺の観光などが少ないため	5	2.1	6	3.1
6	住み心地が良くないため	12	5.0	23	11.9
7	災害等に対する安全面で不安があるため	53	22.0	15	7.8
8	人間関係や地域のつきあいがわずらわしいため	14	5.8	29	15.0
9	その他	15	6.2	29	15.0
	全体	241	100.0	193	100.0

- 転出の理由を年齢階層別にみると、20歳代以下の若年層では「仕事の都合、就職や進学、結婚のため」や「交通が不便なため」が多く、50歳代以上の中高年層では「買い物などが不便なため」や「病院や福祉施設が近くにないため」「災害等に対する安全面で不安があるため」が多くなっている。

- 居住継続意向のやや低かった30歳代前半を見ると、「病院や福祉施設が近くにないため」の割合が高くなっている。30歳代後半では「買い物などが不便なため」の回答割合がやや高くなっている。

転出理由 年齢	全体	仕事の都合、就職や進学、結婚	買い物などが不便なため	病院や福祉施設が近くにない	交通が不便なため	周辺の観光などが少ないため	住み心地が良くないため	災害等に対する安全面で不安が	人間関係や地域のつきあいが
全体	241	81	43	40	155	5	12	53	14
	100.0	33.6	17.8	16.6	64.3	2.1	5.0	22.0	5.8
18歳～19歳	19	12	5	0	16	0	2	0	0
	100.0	63.2	26.3	0	84.2	0	10.5	0	0
20歳～24歳	42	27	4	1	34	1	2	5	1
	100.0	64.3	9.5	2.4	81.0	2.4	4.8	11.9	2.4
25歳～29歳	23	14	3	2	15	0	1	2	0
	100.0	60.9	13	8.7	65.2	0	4.3	8.7	0
30歳～34歳	23	11	2	5	16	2	1	3	0
	100.0	47.8	8.7	21.7	69.6	8.7	4.3	13.0	0
35歳～39歳	27	7	6	4	14	2	0	3	2
	100.0	25.9	22.2	14.8	51.9	7.4	0	11.1	7.4
40歳～44歳	22	6	4	5	13	0	0	6	2
	100.0	27.3	18.2	22.7	59.1	0	0	27.3	9.1
45歳～49歳	34	3	8	8	16	0	3	11	7
	100.0	8.8	23.5	23.5	47.1	0	8.8	32.4	20.6
50歳～54歳	4	0	1	1	1	0	0	2	1
	100.0	0	25.0	25.0	25.0	0	0	50.0	25.0
55歳～59歳	6	1	2	2	4	0	0	2	0
	100.0	16.7	33.3	33.3	66.7	0	0	33.3	0
60歳～64歳	9	0	1	4	8	0	0	3	0
	100.0	0	11.1	44.4	88.9	0	0	33.3	0
65歳～69歳	13	0	4	6	9	0	0	4	1
	100.0	0	30.8	46.2	69.2	0	0	30.8	7.7
70歳以上	18	0	3	2	8	0	3	12	0
	100.0	0	16.7	11.1	44.4	0	16.7	66.7	0

- 転出の理由を職業別にみると、学生は「仕事の都合、就職や進学、結婚のため」や「交通が不便なため」が多く、無職や派遣社員等は「病院や福祉施設が近くにないため」が多くなっている。

転出理由 職業	全体	仕事の都合、就職や進学、結婚	買い物などが不便なため	病院や福祉施設が近くにない	交通が不便なため	周辺の観光などが少ないため	住み心地が良くないため	災害等に対する安全面で不安が	人間関係や地域のつきあいが
全体	241	81	43	40	155	5	12	53	14
	100.0	33.6	17.8	16.6	64.3	2.1	5.0	22	5.8
農業	1	0	0	0	0	0	0	1	0
	100.0	0	0	0	0	0	0	100.0	0
経営者、会社役員、 自営業	11	0	0	1	5	0	2	6	2
	100.0	0	0	9.1	45.5	0	18.2	54.5	18.2
会社員・団体職員 (正規雇用)	91	32	20	10	54	2	4	22	7
	100.0	35.2	22.0	11.0	59.3	2.2	4.4	24.2	7.7
派遣・契約社員、 パート、アルバイト	38	12	6	11	25	2	1	6	2
	100.0	31.6	15.8	28.9	65.8	5.3	2.6	15.8	5.3
公務員	14	4	1	1	11	0	0	2	2
	100.0	28.6	7.1	7.1	78.6	0	0	14.3	14.3
学生	37	29	5	0	30	0	2	0	0
	100.0	78.4	13.5	0	81.1	0	5.4	0	0
無職	43	2	10	14	26	1	3	15	1
	100.0	4.7	23.3	32.6	60.5	2.3	7.0	34.9	2.3
1～7以外	4	1	1	3	2	0	0	1	0
	100.0	25.0	25.0	75.0	50.0	0	0	25	0

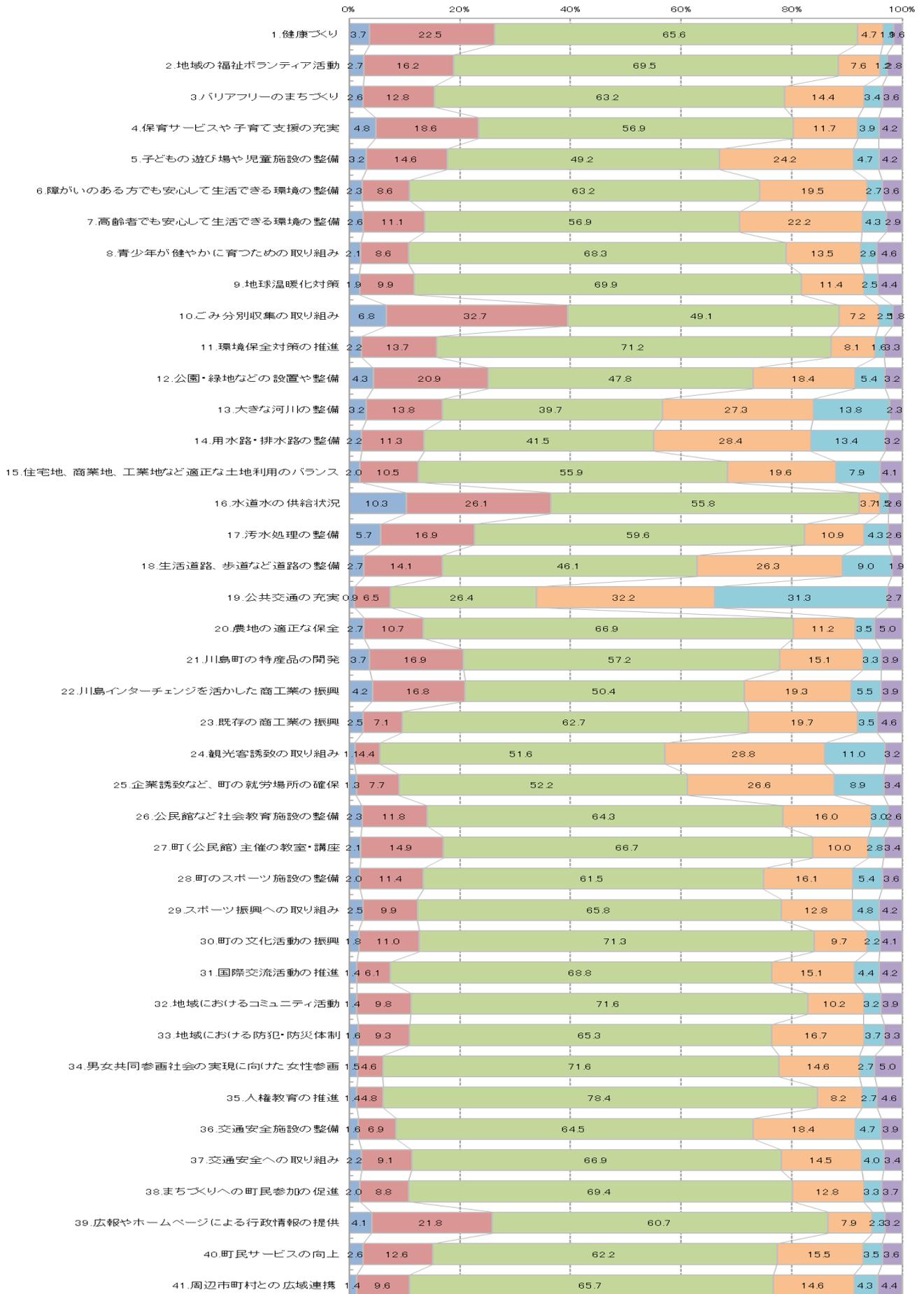
- 転出の理由を居住地別にみると、中山（市街化区域）は「災害等に対する安全面で不安があるため」が多い。
- 伊草（市街化区域）は「医療や福祉施設が近くにないため」が多く、ハツ保や小見野では「買い物などが不便なため」が多くなっている。

転出理由 居住地	全体	仕事の都合、就職や進学、結婚	買い物などが不便なため	病院や福祉施設が近くにないため	交通が不便なため	周辺の観光などが少ないため	住み心地が良くないため	災害等に対する安全面で不安がある	人間関係や地域のつきあいがわる
全体	241	81	43	40	155	5	12	53	14
	100.0	33.6	17.8	16.6	64.3	2.1	5.0	22.0	5.8
中山(市街化区域)	59	16	7	7	34	2	4	23	2
	100.0	27.1	11.9	11.9	57.6	3.4	6.8	39.0	3.4
中山(市街化調整区域)	14	6	2	3	5	0	0	3	2
	100.0	42.9	14.3	21.4	35.7	0	0	21.4	14.3
伊草(市街化区域)	51	14	8	14	31	1	4	10	2
	100.0	27.5	15.7	27.5	60.8	2.0	7.8	19.6	3.9
伊草(市街化調整区域)	15	5	2	2	10	1	1	3	1
	100.0	33.3	13.3	13.3	66.7	6.7	6.7	20	6.7
三保谷	22	12	4	1	16	0	0	2	1
	100.0	54.5	18.2	4.5	72.7	0	0	9.1	4.5
出丸	26	10	4	3	20	0	3	3	3
	100.0	38.5	15.4	11.5	76.9	0	11.5	11.5	11.5
ハツ保	20	7	6	3	17	0	0	2	2
	100.0	35.0	30.0	15.0	85.0	0	0	10.0	10.0
小見野	24	9	9	5	15	1	0	2	1
	100.0	37.5	37.5	20.8	62.5	4.2	0	8.3	4.2

問7 川島町の各分野の取り組みについてどのように感じていますか。（項目ごとに1つに○）

- 各項目別の回答割合は以下のグラフ、表のとおりである。

■とても満足 ■ある程度満足 ■ふつう ■やや不満 ■大いに不満 ■無回答



	全体	1	2	3	4	5	無回答
		とても満足	ある程度満足	ふつう	やや不満	大いに不満	
1.健康づくり	857 100.0	32 3.7	193 22.5	562 65.6	40 4.7	16 1.9	14 1.6
2.地域の福祉ボランティア活動	857 100.0	23 2.7	139 16.2	596 69.5	65 7.6	10 1.2	24 2.8
3.バリアフリーのまちづくり	857 100.0	22 2.6	110 12.8	542 63.2	123 14.4	29 3.4	31 3.6
4.保育サービスや子育て支援の充実	857 100.0	41 4.8	159 18.6	488 56.9	100 11.7	33 3.9	36 4.2
5.子どもの遊び場や児童施設の整備	857 100.0	27 3.2	125 14.6	422 49.2	207 24.2	40 4.7	36 4.2
6.障がいのある方でも安心して生活できる環境の整備	857 100.0	20 2.3	74 8.6	542 63.2	167 19.5	23 2.7	31 3.6
7.高齢者でも安心して生活できる環境の整備	857 100.0	22 2.6	95 11.1	488 56.9	190 22.2	37 4.3	25 2.9
8.青少年が健やかに育つための取り組み	857 100.0	18 2.1	74 8.6	585 68.3	116 13.5	25 2.9	39 4.6
9.地球温暖化対策	857 100.0	16 1.9	85 9.9	599 69.9	98 11.4	21 2.5	38 4.4
10.ごみ分別収集の取り組み	857 100.0	58 6.8	280 32.7	421 49.1	62 7.2	21 2.5	15 1.8
11.環境保全対策の推進	857 100.0	19 2.2	117 13.7	610 71.2	69 8.1	14 1.6	28 3.3
12.公園・緑地などの設置や整備	857 100.0	37 4.3	179 20.9	410 47.8	158 18.4	46 5.4	27 3.2
13.大きな河川の整備	857 100.0	27 3.2	118 13.8	340 39.7	234 27.3	118 13.8	20 2.3
14.用水路・排水路の整備	857 100.0	19 2.2	97 11.3	356 41.5	243 28.4	115 13.4	27 3.2
15.住宅地、商業地、工業地など適正な土地利用のバランス	857 100.0	17 2.0	90 10.5	479 55.9	168 19.6	68 7.9	35 4.1
16.水道水の供給状況	857 100.0	88 10.3	224 26.1	478 55.8	32 3.7	13 1.5	22 2.6
17.汚水処理の整備	857 100.0	49 5.7	145 16.9	511 59.6	93 10.9	37 4.3	22 2.6
18.生活道路、歩道など道路の整備	857 100.0	23 2.7	121 14.1	395 46.1	225 26.3	77 9.0	16 1.9
19.公共交通の充実	857 100.0	8 0.9	56 6.5	226 26.4	276 32.2	268 31.3	23 2.7
20.農地の適正な保全	857 100.0	23 2.7	92 10.7	573 66.9	96 11.2	30 3.5	43 5.0
21.川島町の特産品の開発	857 100.0	32 3.7	145 16.9	490 57.2	129 15.1	28 3.3	33 3.9
22.川島インターチェンジを活かした商工業の振興	857 100.0	36 4.2	144 16.8	432 50.4	165 19.3	47 5.5	33 3.9
23.既存の商工業の振興	857 100.0	21 2.5	61 7.1	537 62.7	169 19.7	30 3.5	39 4.6
24.観光客誘致の取り組み	857 100.0	9 1.1	38 4.4	442 51.6	247 28.8	94 11.0	27 3.2
25.企業誘致など、町の就労場所の確保	857 100.0	11 1.3	66 7.7	447 52.2	228 26.6	76 8.9	29 3.4
26.公民館など社会教育施設の整備	857 100.0	20 2.3	101 11.8	551 64.3	137 16.0	26 3.0	22 2.6
27.町(公民館)主催の教室・講座	857 100.0	18 2.1	128 14.9	572 66.7	86 10.0	24 2.8	29 3.4
28.町のスポーツ施設の整備	857 100.0	17 2.0	98 11.4	527 61.5	138 16.1	46 5.4	31 3.6
29.スポーツ振興への取り組み	857 100.0	21 2.5	85 9.9	564 65.8	110 12.8	41 4.8	36 4.2
30.町の文化活動の振興	857 100.0	15 1.8	94 11.0	611 71.3	83 9.7	19 2.2	35 4.1
31.国際交流活動の推進	857 100.0	12 1.4	52 6.1	590 68.8	129 15.1	38 4.4	36 4.2
32.地域におけるコミュニティ活動	857 100.0	12 1.4	84 9.8	614 71.6	87 10.2	27 3.2	33 3.9
33.地域における防犯・防災体制	857 100.0	14 1.6	80 9.3	560 65.3	143 16.7	32 3.7	28 3.3
34.男女共同参画社会の実現に向けた女性参画	857 100.0	13 1.5	39 4.6	614 71.6	125 14.6	23 2.7	43 5.0
35.人権教育の推進	857 100.0	12 1.4	41 4.8	672 78.4	70 8.2	23 2.7	39 4.6
36.交通安全施設の整備	857 100.0	14 1.6	59 6.9	553 64.5	158 18.4	40 4.7	33 3.9
37.交通安全への取り組み	857 100.0	19 2.2	78 9.1	573 66.9	124 14.5	34 4.0	29 3.4
38.まちづくりへの町民参加の促進	857 100.0	17 2.0	75 8.8	595 69.4	110 12.8	28 3.3	32 3.7
39.広報やホームページによる行政情報の提供	857 100.0	35 4.1	187 21.8	520 60.7	68 7.9	20 2.3	27 3.2
40.町民サービスの向上	857 100.0	22 2.6	108 12.6	533 62.2	133 15.5	30 3.5	31 3.6
41.周辺市町村との広域連携	857 100.0	12 1.4	82 9.6	563 65.7	125 14.6	37 4.3	38 4.4

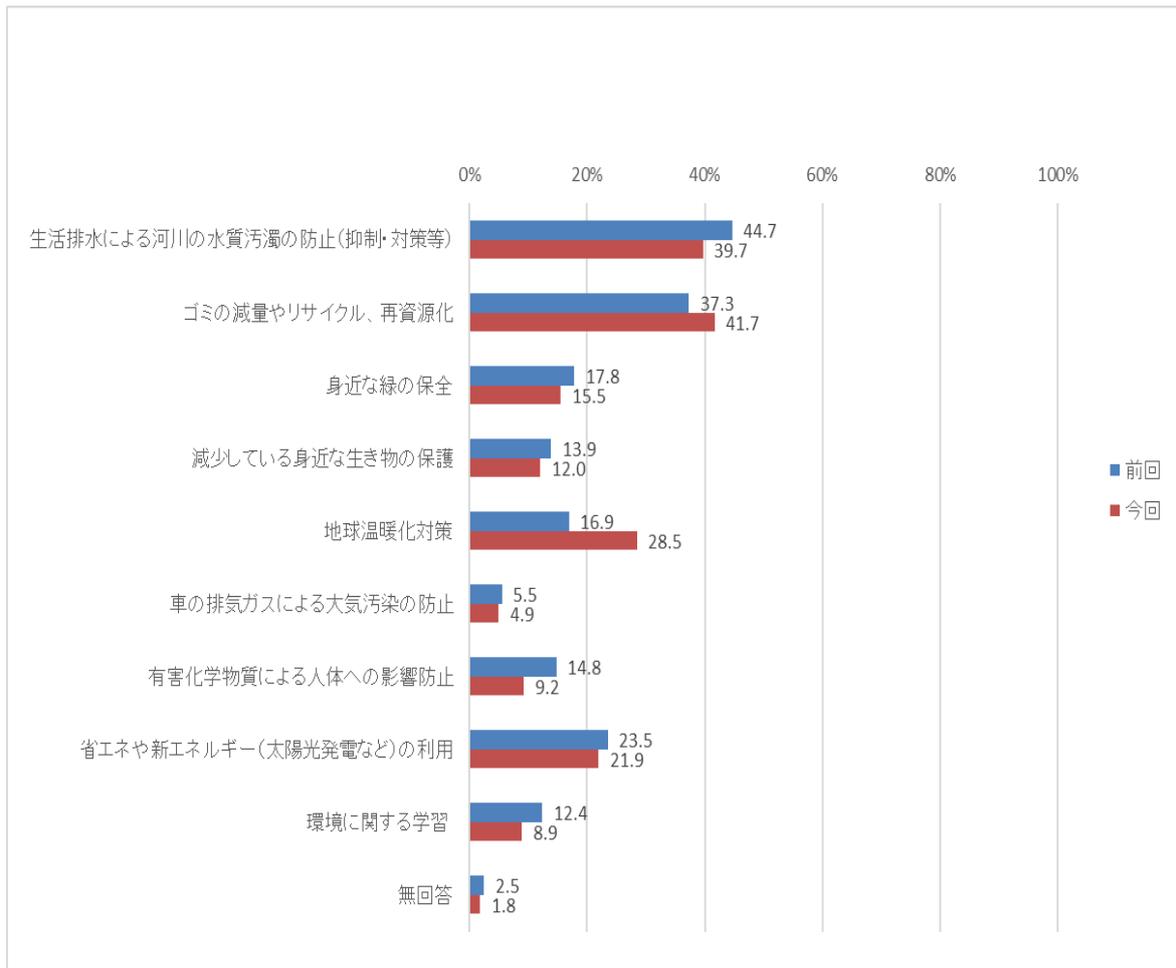
- ここで、各回答をととも満足＝5、ある程度満足＝4、ふつう＝3、やや不満＝2、不満＝1として、項目別に指数化したのが項目評価であり、さらに施策テーマごとの評価を単純平均化したのが施策評価である。
- これを見ると施策テーマで評価が高いのは、（1）保健・医療・福祉と（7）行財政運営の2.99である。（ただし指数が1から5であるため指数の合計値は $1+2+3+4+5=15$ 、指数の数が5であるため中間値は $15/5=3$ 、つまり普通の評価が3であり、ほぼ普通という評価）
- 評価が低いのは（3）都市基盤・土地利用と（4）農業・商業・工業・観光の2.83となっている。
- 項目別に高いのは、16.水道水の供給状況 3.41、10.ごみの分別収集の取り組み 3.35、1.健康づくり 3.22、2.地域の福祉ボランティア活動 3.12、4.保育サービスや子育て支援の充実と17.汚水処理の整備 3.09となっている。（普通である3以上なのは41項目中12項目）
- 低いのは、19.公共交通の充実 2.11、24.観光客誘致の取り組み 2.54、14.用水路・排水路の整備 2.59、13.大きな河川の整備 2.64、25.企業誘致など町の就業場所の確保が2.65となっている。
- 前回と比較するために前回調査分も指数化したところ、施策テーマ別にはすべての施策で評価が高まっており、特に（1）保健・医療・福祉分野で0.28ポイント、（4）農業・商業・工業・観光分野で0.21ポイント上昇している。
- 項目別にみても多くの項目で上昇しており、特に5.子どもの遊び場や児童施設の整備や4.保育サービスや子育て支援の充実、7.高齢者でも安心して生活できる環境の整備、3.バリアフリーのまちづくり、6.障がいのある方でも安心して生活できる環境の整備が0.3ポイントを超えて大きく上昇している。
- 5年間の取り組みである「かわみん子育て応援ナビ」や「かわみんハウス」、「かわみんタクシー」、「地域包括支援センター」などが一定程度評価されていると思われる。
- その中で唯一減少しているのが13.大きな河川の整備である。昨年度の台風被害の影響でマイナスの評価になっていると思われる。

	今回項目 評価	今回施策 評価	前回項目 評価	前回施策 評価	差
(1)保健・医療・福祉		2.99		2.71	0.28
1.健康づくり	3.22		3.15		0.07
2.地域の福祉ボランティア活動	3.12		2.96		0.16
3.バリアフリーのまちづくり	2.97		2.65		0.32
4.保育サービスや子育て支援の充実	3.09		2.72		0.37
5.子どもの遊び場や児童施設の整備	2.87		2.48		0.39
6.障がいのある方でも安心して生活できる 環境の整備	2.88		2.58		0.30
7.高齢者でも安心して生活できる環境の 整備	2.85		2.52		0.33
8.青少年が健やかに育つための取り組み	2.93		2.64		0.29
(2)自然環境・生活環境		2.94		2.88	0.06
9.地球温暖化対策	2.97		2.87		0.10
10.ごみ分別収集の取り組み	3.35		3.28		0.06
11.環境保全対策の推進	3.07		2.94		0.13
12.公園・緑地などの設置や整備	3.00		2.78		0.23
13.大きな河川の整備	2.64		2.87		-0.23
14.用水路・排水路の整備	2.59		2.55		0.04
(3)都市基盤・土地利用		2.83		2.65	0.18
15.住宅地、商業地、工業地など適正な土 地利用のバランス	2.78		2.55		0.23
16.水道水の供給状況	3.41		3.27		0.14
17.汚水処理の整備	3.09		2.92		0.17
18.生活道路、歩道など道路の整備	2.75		2.51		0.24
19.公共交通の充実	2.11		1.98		0.13
(4)農業・商業・工業・観光		2.83		2.62	0.21
20.農地の適正な保全	2.98		2.79		0.18
21.川島町の特産品の開発	3.03		2.79		0.24
22.川島インターチェンジを活かした商工業 の振興	2.95		2.77		0.17
23.既存の商工業の振興	2.85		2.62		0.23
24.観光客誘致の取り組み	2.54		2.30		0.25
25.企業誘致など、町の就労場所の確保	2.65		2.47		0.17

(5)生涯学習・教育		2.94		2.78	0.15
26.公民館など社会教育施設の整備	2.94		2.78		0.17
27.町(公民館)主催の教室・講座	3.04		2.85		0.18
28.町のスポーツ施設の整備	2.88		2.73		0.15
29.スポーツ振興への取り組み	2.92		2.78		0.14
30.町の文化活動の振興	3.00		2.84		0.16
31.国際交流活動の推進	2.84		2.72		0.13
(6)自治・コミュニティ		2.90		2.82	0.08
32.地域におけるコミュニティ活動	2.96		2.94		0.02
33.地域における防犯・防災体制	2.88		2.88		0.00
34.男女共同参画社会の実現に向けた女性参画	2.87		2.78		0.09
35.人権教育の推進	2.94		2.86		0.08
36.交通安全施設の整備	2.82		2.70		0.12
37.交通安全への取り組み	2.91		2.75		0.15
(7)行財政運営		2.99		2.81	0.18
38.まちづくりへの町民参加の促進	2.93		2.73		0.20
39.広報やホームページによる行政情報の提供	3.18		3.04		0.14
40.町民サービスの向上	2.95		2.74		0.21
41.周辺市町村との広域連携	2.89		2.72		0.17

問8 自然環境・生活環境の取り組みで、次のうち、重点的に進めていくべき施策は何だと思えますか。（主なもの2つまでに○）

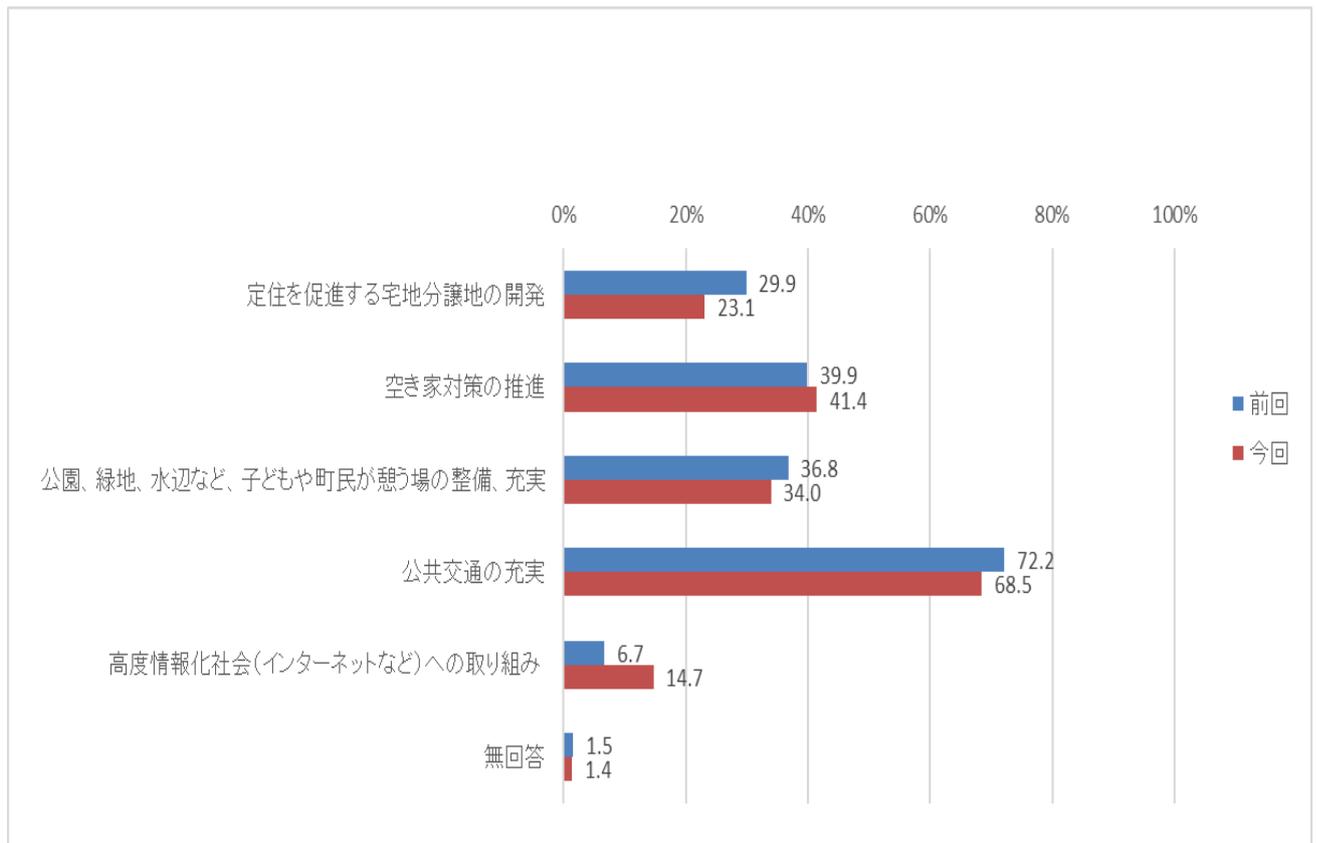
- 自然環境・生活環境について重点的に進めていくべき施策については、「ゴミの減量やリサイクル、再資源化」が41.7%で最も高く、次いで「生活排水による河川の水質汚濁の防止」39.7%、「地球温暖化対策」が28.5%と続いている。
- 前回と比較すると「地球温暖化対策」が12ポイント、「ごみの減量やリサイクル、再資源化」が4ポイント増えている。



		今回		前回	
		N	%	N	%
1	生活排水による河川の水質汚濁の防止(抑制・対策等)	340	39.7	360	44.7
2	ゴミの減量やリサイクル、再資源化	357	41.7	300	37.3
3	身近な緑の保全	133	15.5	143	17.8
4	減少している身近な生き物の保護	103	12.0	112	13.9
5	地球温暖化対策	244	28.5	136	16.9
6	車の排気ガスによる大気汚染の防止	42	4.9	44	5.5
7	有害化学物質による人体への影響防止	79	9.2	119	14.8
8	省エネや新エネルギー(太陽光発電など)の利用	188	21.9	189	23.5
9	環境に関する学習	76	8.9	100	12.4
	無回答	15	1.8	20	2.5
	全体	857	100.0	805	100.0

問9 都市基盤の取り組みで、次のうち、重点的に進めていくべき施策は何だと思いますか。（主なもの2つまでに○）

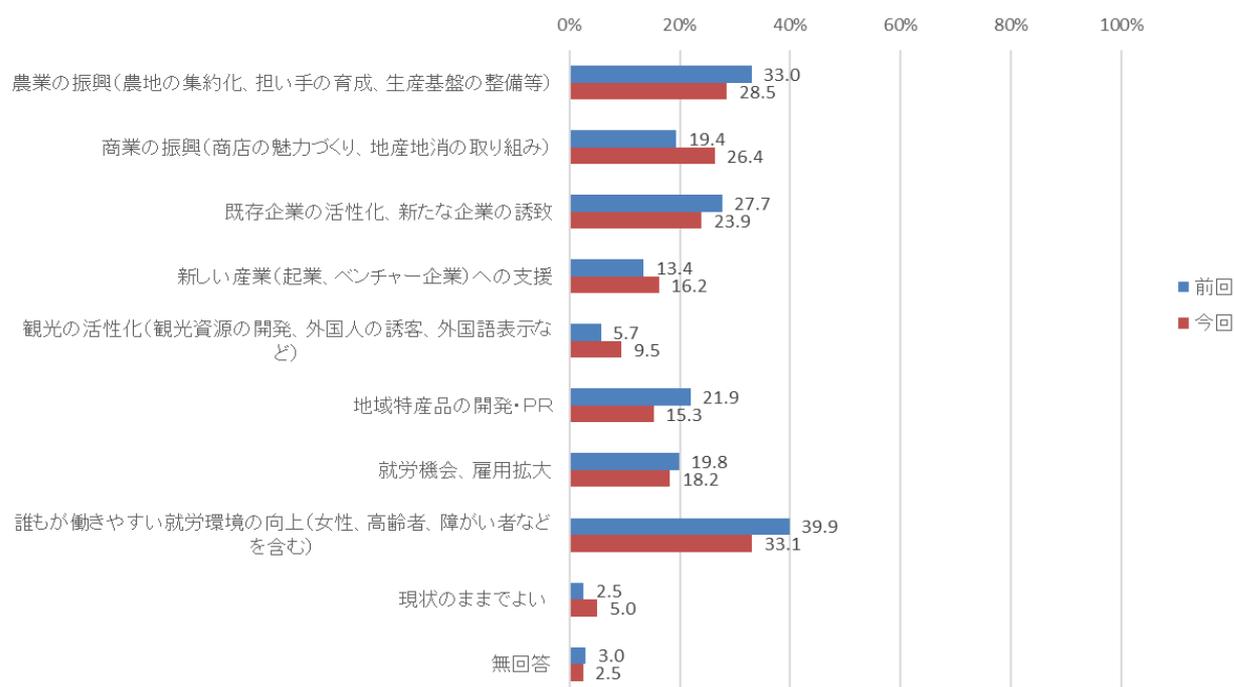
- 都市基盤について重点的に進めていくべき施策については「公共交通の充実」が68.5%と最も多く、次いで「空き家対策の推進」が41.4%、「公園、緑地、水辺など、子どもや町民が憩う場の整備、充実」が34.0%と続いている。
- 前回と比較して「定住を促進する宅地分譲地の開発」が7ポイント減少し、「高度情報化社会（インターネットなど）への取り組み」が8ポイント増加している以外は、大きな変動は確認できない。



		今回		前回	
		N	%	N	%
1	定住を促進する宅地分譲地の開発	198	23.1	241	29.9
2	空き家対策の推進	355	41.4	321	39.9
3	公園、緑地、水辺など、子どもや町民が憩う場の整備、充実	291	34.0	296	36.8
4	公共交通の充実	587	68.5	581	72.2
5	高度情報化社会(インターネットなど)への取り組み	126	14.7	54	6.7
	無回答	12	1.4	12	1.5
	全体	857	100.0	805	100.0

問 10 産業振興、雇用拡大の取り組みで、次のうち、重点的に進めていくべき施策は何だと思えますか。（主なもの2つまでに○）

- 産業振興、雇用拡大について重点的に進めていくべき施策は、「誰もが働きやすい就労環境の向上」が33.1%と最も多く、次いで「農業の振興」28.5%、「商業の振興」が26.4%と続いている。
- 前回と比較すると「商業の振興」が7ポイント増えている一方で、「地域特産品の開発・PR」が7ポイント減少しているが、それ以外では大きな変動はない。
- 特産品開発に関しては、KJブランドの取り組みが始まっていることが減少の要因の一つと考えられるのではないかと。



		今回		前回	
		N	%	N	%
1	農業の振興(農地の集約化、担い手の育成、生産基盤の整備等)	244	28.5	266	33.0
2	商業の振興(商店の魅力づくり、地産地消の取り組み)	226	26.4	156	19.4
3	既存企業の活性化、新たな企業の誘致	205	23.9	223	27.7
4	新しい産業(起業、ベンチャー企業)への支援	139	16.2	108	13.4
5	観光の活性化(観光資源の開発、外国人の誘客、外国語表示など)	81	9.5	46	5.7
6	地域特産品の開発・PR	131	15.3	176	21.9
7	就労機会、雇用拡大	156	18.2	159	19.8
8	誰もが働きやすい就労環境の向上(女性、高齢者、障がい者などを含む)	284	33.1	321	39.9
9	現状のままでよい	43	5.0	20	2.5
	無回答	21	2.5	24	3.0
	全体	857	100.0	805	100.0

- 産業振興策について年齢階層別にみると、20歳代以下の若年層で商業振興や観光活性化などの回答割合が比較的高く、30歳代から40歳代で商業振興の割合が高く、50歳代以上の中高年層で就労環境の向上の割合が高い。
- それ以外には年齢階層別に傾向は見て取れない。

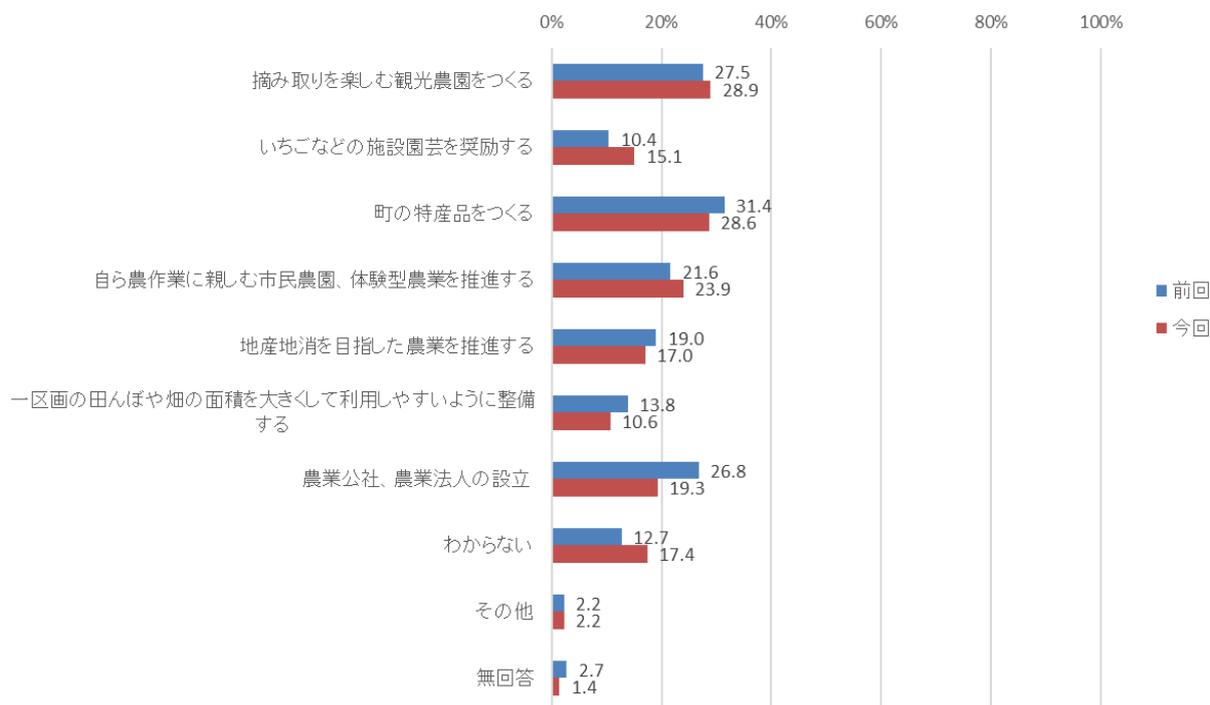
産業振興策 年齢	全体	農業の振興	商業の振興	既存企業の活性化、新たな企業	新しい産業への支援	観光の活性化	地域特産品の開発・PR	就労機会、雇用拡大	誰もが働きやすい就労環境向上	現状のままでよい
全体	857	244	226	205	139	81	131	156	284	43
	100.0	28.5	26.4	23.9	16.2	9.5	15.3	18.2	33.1	5
18歳～19歳	33	10	14	4	5	2	8	5	5	3
	100.0	30.3	42.4	12.1	15.2	6.1	24.2	15.2	15.2	9.1
20歳～24歳	67	19	12	14	9	13	12	18	19	4
	100.0	28.4	17.9	20.9	13.4	19.4	17.9	26.9	28.4	6
25歳～29歳	61	15	12	16	17	7	7	12	21	1
	100.0	24.6	19.7	26.2	27.9	11.5	11.5	19.7	34.4	1.6
30歳～34歳	72	18	24	14	16	6	15	13	22	4
	100.0	25.0	33.3	19.4	22.2	8.3	20.8	18.1	30.6	5.6
35歳～39歳	107	34	30	23	16	15	13	21	33	7
	100.0	31.8	28.0	21.5	15.0	14.0	12.1	19.6	30.8	6.5
40歳～44歳	84	23	24	21	13	13	10	20	24	5
	100.0	27.4	28.6	25.0	15.5	15.5	11.9	23.8	28.6	6
45歳～49歳	126	36	37	34	25	12	17	20	43	3
	100.0	28.6	29.4	27.0	19.8	9.5	13.5	15.9	34.1	2.4
50歳～54歳	25	10	6	6	5	1	3	2	8	1
	100.0	40.0	24.0	24.0	20.0	4.0	12.0	8.0	32.0	4.0
55歳～59歳	27	8	6	7	5	2	1	7	9	1
	100.0	29.6	22.2	25.9	18.5	7.4	3.7	25.9	33.3	3.7
60歳～64歳	40	13	13	12	8	0	6	8	16	1
	100.0	32.5	32.5	30.0	20.0	0	15.0	20.0	40.0	2.5
65歳～69歳	58	16	15	18	3	2	13	5	23	2
	100.0	27.6	25.9	31.0	5.2	3.4	22.4	8.6	39.7	3.4
70歳以上	151	41	31	35	17	8	24	23	59	11
	100.0	27.2	20.5	23.2	11.3	5.3	15.9	15.2	39.1	7.3

- 産業振興策について居住地別にみると、小見野で農業振興の回答割合が高く、伊草（市街化調整区域）で新しい産業への支援、出丸で観光活性化、中山（市街化調整区域）で地域特産品の開発・PRがやや高い程度で、居住地別に傾向は見て取れない。

産業振興策 居住地	全体	農業の振興	商業の振興	既存企業の活性化、新たな企業	新しい産業への支援	観光の活性化	地域特産品の開発・PR	就労機会、雇用拡大	誰もが働きやすい就労環境向上	現状のままでよい
全体	857	244	226	205	139	81	131	156	284	43
	100.0	28.5	26.4	23.9	16.2	9.5	15.3	18.2	33.1	5.0
中山(市街化区域)	191	48	52	40	28	23	33	38	71	6
	100.0	25.1	27.2	20.9	14.7	12.0	17.3	19.9	37.2	3.1
中山(市街化調整区域)	64	18	16	19	7	5	14	13	20	3
	100.0	28.1	25.0	29.7	10.9	7.8	21.9	20.3	31.3	4.7
伊草(市街化区域)	185	46	44	51	29	14	20	32	70	13
	100.0	24.9	23.8	27.6	15.7	7.6	10.8	17.3	37.8	7.0
伊草(市街化調整区域)	51	9	17	15	14	5	10	7	12	4
	100.0	17.6	33.3	29.4	27.5	9.8	19.6	13.7	23.5	7.8
三保谷	91	28	23	24	13	6	17	18	25	7
	100.0	30.8	25.3	26.4	14.3	6.6	18.7	19.8	27.5	7.7
出丸	90	29	23	24	15	13	15	15	27	4
	100.0	32.2	25.6	26.7	16.7	14.4	16.7	16.7	30	4.4
八ツ保	78	27	24	12	19	4	10	13	26	4
	100.0	34.6	30.8	15.4	24.4	5.1	12.8	16.7	33.3	5.1
小見野	78	33	20	15	8	9	7	15	26	0
	100.0	42.3	25.6	19.2	10.3	11.5	9.0	19.2	33.3	0

問 11 町の農業を振興するために、どのような農業経営を進めるべきだと思いますか。（主なもの2つまでに○）

- 町の農業振興のための取り組みについては「摘み取りを楽しむ観光農園をつくる」が28.9%と最も多く、次いで「町の特産品をつくる」が28.6%、「自ら農作業に親しむ市民農園、体験型農業を推進する」が23.9%と続いている。農業の面からでは特産品開発は必要性が高くなっている。
- 前回と比較して「農業公社、農業法人の設立」が8ポイント減少している以外は大きな変動は確認できない。

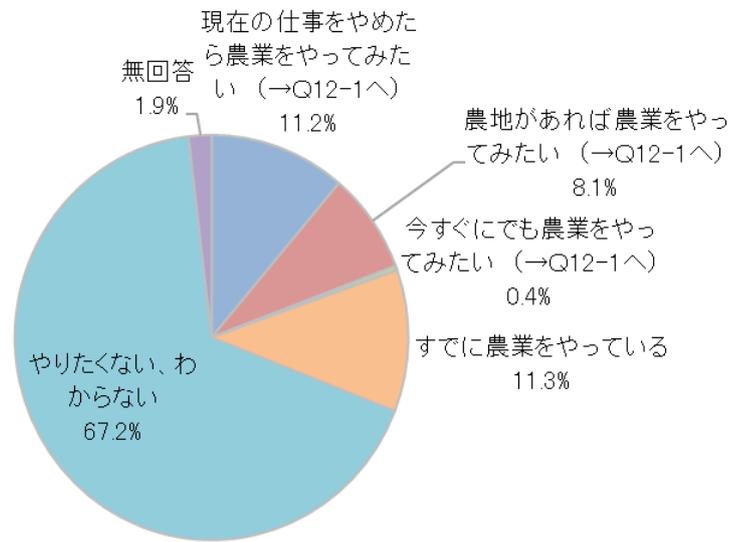


		今回		前回	
		N	%	N	%
1	摘み取りを楽しむ観光農園をつくる	248	28.9	221	27.5
2	いちごなどの施設園芸を奨励する	129	15.1	84	10.4
3	町の特産品をつくる	245	28.6	253	31.4
4	自ら農作業に親しむ市民農園、体験型農業を推進する	205	23.9	174	21.6
5	地産地消を目指した農業を推進する	146	17.0	153	19.0
6	一区画の田んぼや畑の面積を大きくして利用しやすいように整備する	91	10.6	111	13.8
7	農業公社、農業法人の設立	165	19.3	216	26.8
8	わからない	149	17.4	102	12.7
9	その他	19	2.2	18	2.2
	無回答	12	1.4	22	2.7
	全体	857	100.0	805	100.0

問 12 あなたは、新たに農業に就いてみたいという考えはありますか。（1つに○）

- 新たに農業に就いてみたいかについては、「やりたくない、わからない」が67.2%と最も多いものの、「現在の仕事をやめたら農業をやりたい」が11.3%、「農地があれば農業をやりたい」が8.1%、「今すぐにでも農業をやりたい」が0.4%と就農意向者が約20%存在することが確認できる。（「すでに農業をやっている」は11.3%）
- 早急に就農支援対策を講じることで新規就農者を確保できる可能性がある。

- 前回と比較すると就農意向者の割合は変化がない。



		今回		前回	
		N	%	N	%
1	現在の仕事をやめたら農業をやりたい (→Q12-1へ)	96	11.2	93	11.5
2	農地があれば農業をやりたい (→Q12-1へ)	69	8.1	63	7.8
3	今すぐにも農業をやりたい (→Q12-1へ)	3	0.4	6	0.7
4	すでに農業をやっている	97	11.3		
5	やりたくない、わからない	576	67.2	565	70.2
	無回答	16	1.9	80	9.9
	全体	857	100.0	805	100.0

- 就農意向を持つのは年齢階層では 20 歳代後半から 50 歳代前半（特に 30 歳代が高い）、職業は会社員や経営者、派遣等、居住地では中山（市街化区域）が高い。（ただし居住地では明確な差は見られない。）

年齢	就農意向	現在の仕事をやめたら農業を	農地があれば農業をやってみた	今すぐにも農業をやってみた
全体		96	69	3
		11.2	8.1	0.4
18歳～19歳		3	0	0
		9.1	0	0
20歳～24歳		4	8	0
		6.0	11.9	0
25歳～29歳		7	9	0
		11.5	14.8	0
30歳～34歳		17	9	0
		23.6	12.5	0
35歳～39歳		16	13	1
		15.0	12.1	0.9
40歳～44歳		13	9	1
		15.5	10.7	1.2
45歳～49歳		24	10	0
		19.0	7.9	0
50歳～54歳		6	1	1
		24.0	4.0	4.0
55歳～59歳		1	0	0
		3.7	0	0
60歳～64歳		2	4	0
		5.0	10.0	0
65歳～69歳		1	3	0
		1.7	5.2	0
70歳以上		2	2	0
		1.3	1.3	0

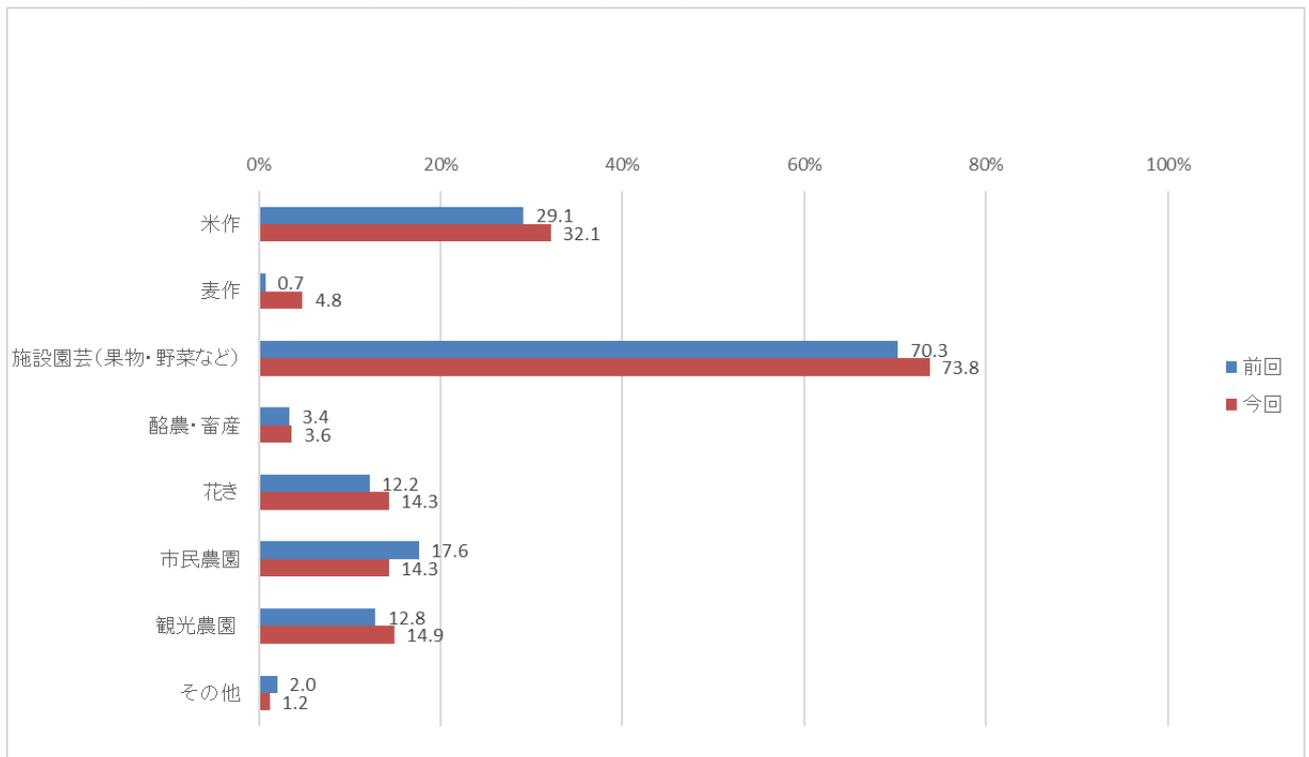
職業	就農意向	現在の仕事をやめたら農業を	農地があれば農業をやってみた	今すぐにも農業をやってみた
全体		96	69	3
		11.2	8.1	0.4
農業		0	0	0
		0	0	0
経営者、会社役員、 自営業		10	5	0
		17.5	8.8	0
会社員・団体職員 (正規雇用)		56	25	1
		21.5	9.6	0.4
派遣・契約社員、 パート、アルバイト		13	16	1
		8.3	10.3	0.6
公務員		8	2	0
		15.7	3.9	0
学生		6	3	0
		9.2	4.6	0
無職		2	16	0
		1.0	7.7	0
1～7以外		1	2	0
		3.2	6.5	0

居住地	就農意向	現在の仕事をやめたら農業を	農地があれば農業をやってみた	今すぐにも農業をやってみた
全体		96	69	3
		11.2	8.1	0.4
中山(市街化区域)		14	28	0
		7.3	14.7	0
中山(市街化調整区域)		12	2	0
		18.8	3.1	0
伊草(市街化区域)		18	20	0
		9.7	10.8	0
伊草(市街化調整区域)		5	5	0
		9.8	9.8	0
三保谷		16	3	1
		17.6	3.3	1.1
出丸		11	5	1
		12.2	5.6	1.1
八ツ保		10	2	0
		12.8	2.6	0
小見野		9	1	1
		11.5	1.3	1.3

問 12-1 問 12 で「1～3」に○をつけた方のみお答えください。

① やってみたい農業は何ですか。(主なもの2つまでに○)

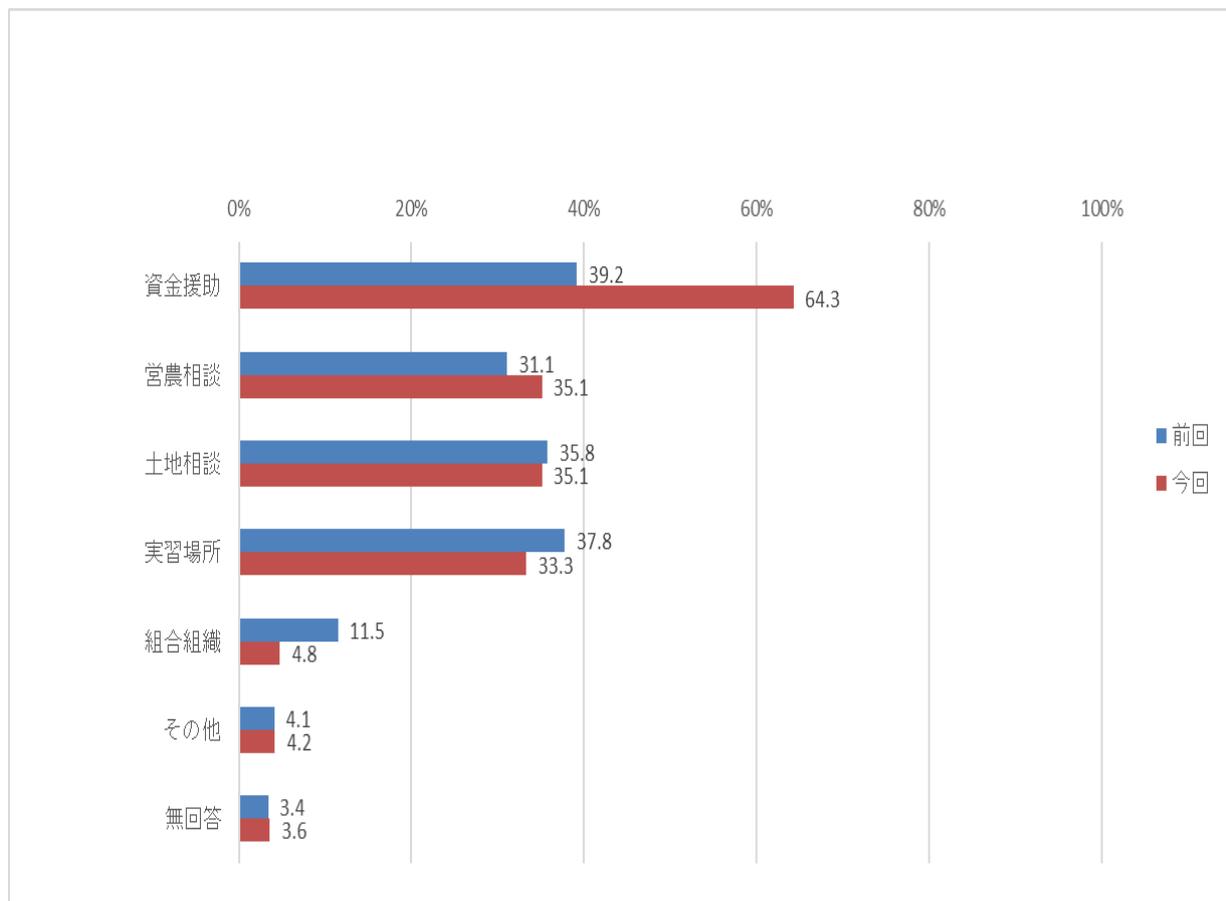
- やってみたい農業については、「施設園芸」が73.8%と最も多く、次いで「米作」が32.1%と続いている。
- 前回と比較すると大きな変動は確認できない。



	今回		前回	
	N	%	N	%
1 米作	54	32.1	43	29.1
2 麦作	8	4.8	1	0.7
3 施設園芸(果物・野菜など)	124	73.8	104	70.3
4 酪農・畜産	6	3.6	5	3.4
5 花き	24	14.3	18	12.2
6 市民農園	24	14.3	26	17.6
7 観光農園	25	14.9	19	12.8
8 その他	2	1.2	3	2.0
全体	168	100.0	148	100.0

②やってみたい農業に必要なことは何ですか。(主なもの2つまでに○)

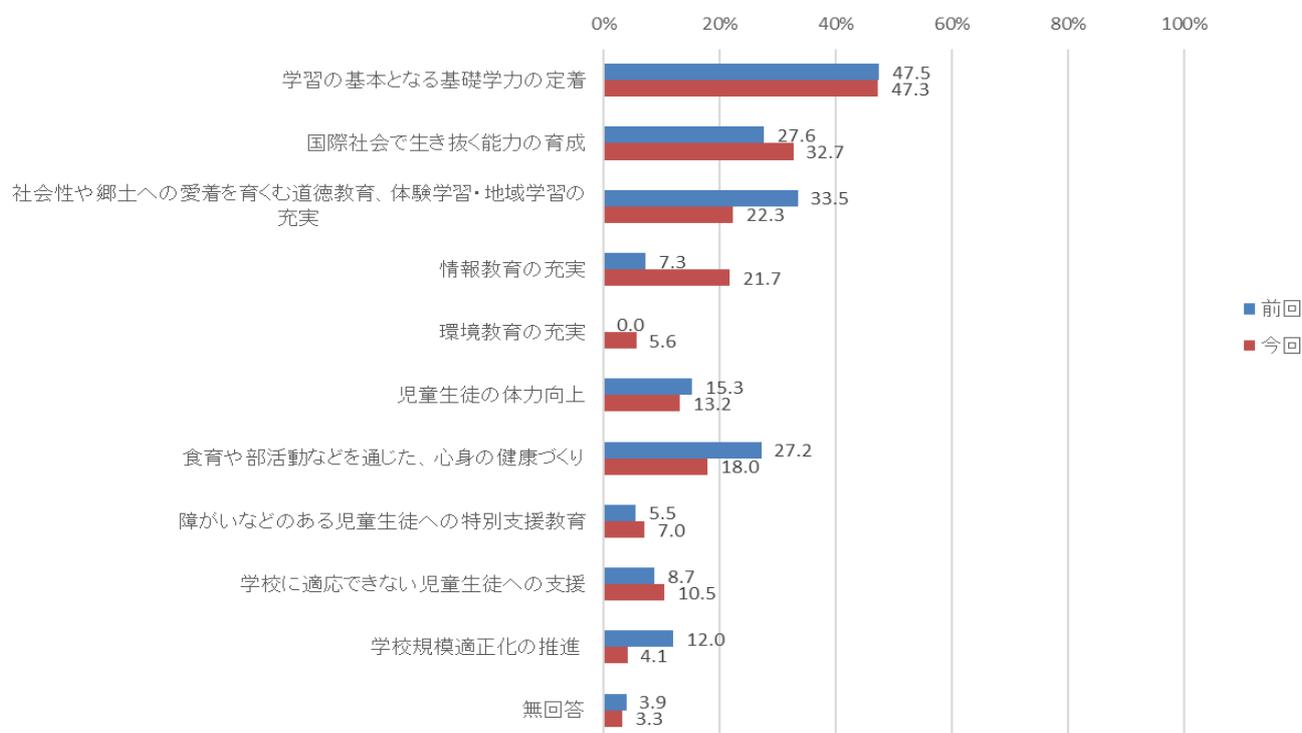
- やってみたい農業に必要なことについては、「資金援助」64.3%と最も多く、次いで「営農相談」と「土地相談」が35.1%、「実習場所」が33.3%と続いている。
- 「資金援助」の回答割合が25ポイントと大幅に増加しており、資金面での支援を望む声が高まっていることが分かる。その他の項目は大きな変動は確認できない。
- 施設園芸に必要な資金・土地の確保と経営指導が必要であるとの回答が多いため、こうした観点での相談対応を強化する必要があるだろう。



	今回		前回	
	N	%	N	%
1 資金援助	108	64.3	58	39.2
2 営農相談	59	35.1	46	31.1
3 土地相談	59	35.1	53	35.8
4 実習場所	56	33.3	56	37.8
5 組合組織	8	4.8	17	11.5
6 その他	7	4.2	6	4.1
無回答	6	3.6	5	3.4
全体	168	100.0	148	100.0

問 13 町の学校教育で、次のうち、重点的に進めていくべきものは何だと思えますか。（主なもの2つまで○）

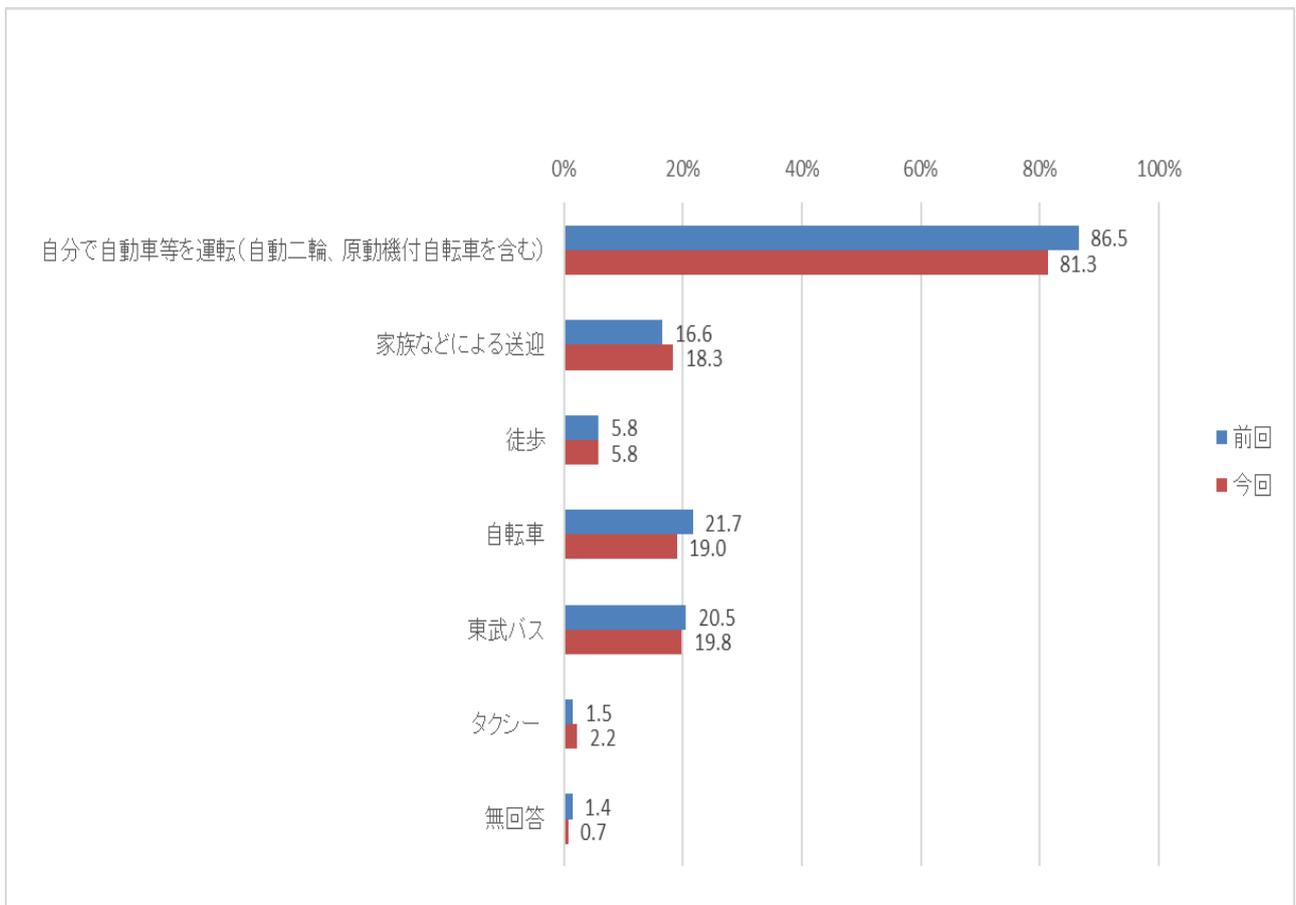
- 町の学校教育で重点的に進めていくべきものについては、「学習の基本となる基礎学力の定着」が47.3%と最も多く、次いで「国際社会で生き抜く能力の育成」が32.7%「社会性や郷土への愛着を育む道德教育、体験学習・地域学習の充実」が22.3%、「情報教育の充実」が21.7%と続いている。
- 前回と比較すると、「情報教育の充実」が20ポイント増加している。（前回は選択肢に環境教育も入っていたため、双方プラスして比較）
- 一方で、道德教育等の充実が11ポイント、心身の健康づくりが9ポイント減少しており、教育に望むものが国際化・情報化への対応という方向へ変化していると言える。



	今回		前回	
	N	%	N	%
1 学習の基本となる基礎学力の定着	405	47.3	382	47.5
2 国際社会で生き抜く能力の育成	280	32.7	222	27.6
3 社会性や郷土への愛着を育む道德教育、体験学習・地域学習の充実	191	22.3	270	33.5
4 情報教育の充実	186	21.7	59	7.3
5 環境教育の充実	48	5.6		
6 児童生徒の体力向上	113	13.2	123	15.3
7 食育や部活動などを通じた、心身の健康づくり	154	18.0	219	27.2
8 障がいなどのある児童生徒への特別支援教育	60	7.0	44	5.5
9 学校に適応できない児童生徒への支援	90	10.5	70	8.7
10 学校規模適正化の推進	35	4.1	97	12.0
無回答	28	3.3	31	3.9
全体	857	100.0	805	100.0

問 14 あなたは、日常どのような手段で外出（移動）しますか。（主なもの2つまでに○）

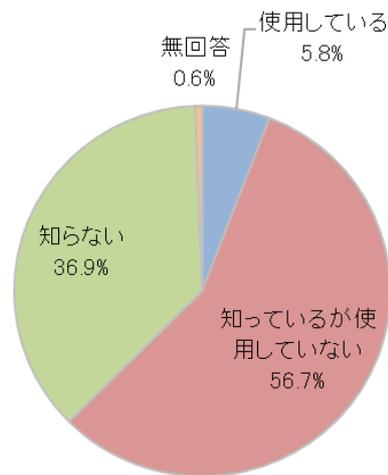
- 日常的な外出（移動）手段については「自分で自動車等を運転」が81.3%と圧倒的に多い。次いで「東武バス」が19.8%、「自転車」が19.0%、「家族などによる送迎」が18.3%と続いている。
- 前回と比較すると大きな変動は確認できない。



	今回		前回	
	N	%	N	%
1 自分で自動車等を運転(自動二輪、原動機付自転車を含む)	697	81.3	696	86.5
2 家族などによる送迎	157	18.3	134	16.6
3 徒歩	50	5.8	47	5.8
4 自転車	163	19.0	175	21.7
5 東武バス	170	19.8	165	20.5
6 タクシー	19	2.2	12	1.5
無回答	6	0.7	11	1.4
全体	857	100.0	805	100.0

問 15 町では、事前に登録することにより、自宅などから町内の行きたい場所や指定の町外病院に行くことができ、交通弱者の日中の移動を支援する交通サービスである、かわみんタクシーを平成 29 年 1 月より本格運行しています。あなたは、そのサービスを知っていますか。(1つに○)

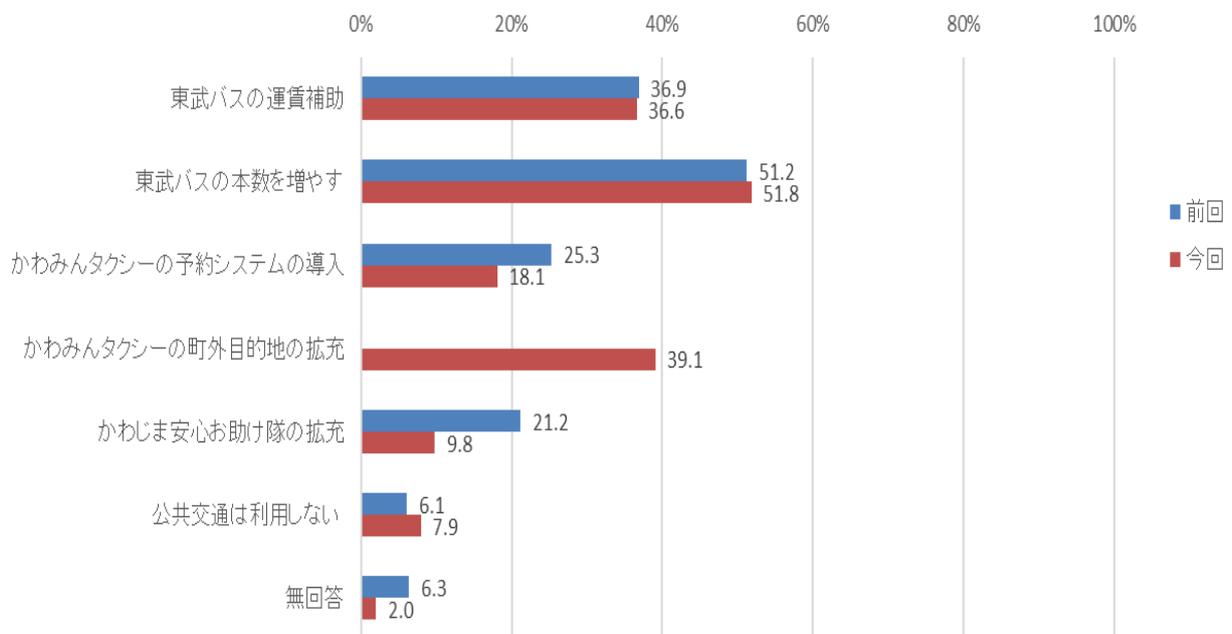
- かわみんタクシーについては「知っているが使用していない」が 56.7%と多くなっている。「知らない」が 36.9%、「使用している」が 5.8%と続いている。
- 約4割が「知らない」との回答になっており、メールやLINEの認知度と比較すると、高められる余地があると思われる。
- 新規で導入した制度であるので、利用率も高められるよう運用の工夫が求められるであろう。



	N	%
1 使用している	50	5.8
2 知っているが使用していない	486	56.7
3 知らない	316	36.9
無回答	5	0.6
全体	857	100.0

問 16 町では、かわみんタクシーの本格運行を開始し、東武バス「川島町役場」線の運行も開始されました。今後、町の公共交通等のさらなる充実のために必要なのは、どのような取り組みだと思いますか。（主なもの2つまで○）

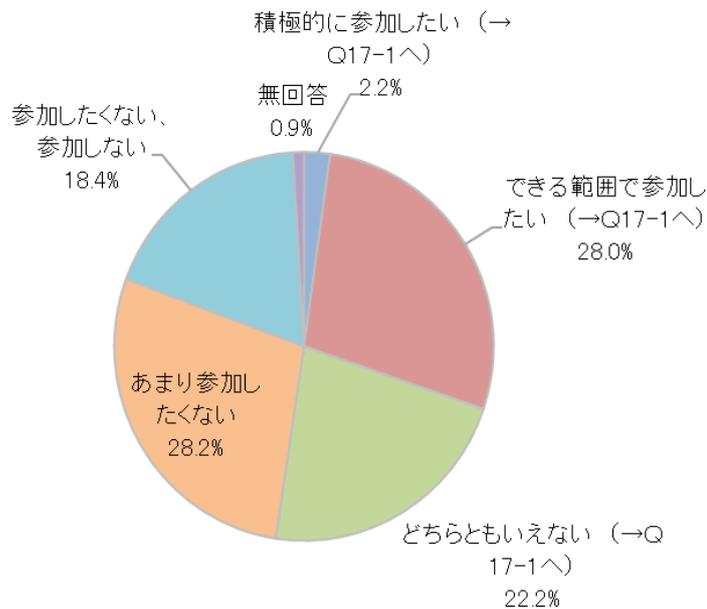
- 今後、町の公共交通等の充実のために必要な取り組みは、「東武バスの本数を増やす」が51.8%と最も多く、次いで「かわみんタクシーの町外目的地の拡充」が39.1%、「東武バスの運賃補助」36.6%と続いている。
- 前回と比較すると「かわじま安心お助け隊の拡充」が11ポイントと大幅に減少しており、制度の見直しが望まれている可能性がある。
- かわみんタクシーに関しては、前回調査では「デマンド交通」との選択肢となっており、単純に比較はできない。かわみんタクシーに関しては、2つの選択肢（予約システム導入も18.1%）とも比較的高い割合となっており、潜在的なニーズはあると思われる。



	今回		前回	
	N	%	N	%
1 東武バスの運賃補助	314	36.6	297	36.9
2 東武バスの本数を増やす	444	51.8	412	51.2
3 かわみんタクシーの予約システムの導入	155	18.1	204	25.3
4 かわみんタクシーの町外目的地の拡充	335	39.1		
5 かわじま安心お助け隊の拡充	84	9.8	170	21.2
6 公共交通は利用しない	68	7.9	49	6.1
無回答	17	2.0	51	6.3
全体	857	100.0	805	100.0

問 17 あなたは地域活動やボランティア活動などに参加したいですか。（1 つに ○）

- 地域活動やボランティア活動への参加については「あまり参加したくない」が 28.2%と最も多く、次いで「できる範囲で参加したい」が 28.0%、「どちらともいえない」が 22.0%、「参加したくない、参加しない」が 18.4%と続いている。
- 「積極的に参加したい」+「できる範囲で参加したい」が 30.2%、「あまり参加したくない」+「参加したくない、参加しない」が 46.6%と、参加しないとの意向の方が高くなっている。
- 前回と比較すると、参加意向は 5 ポイント減、参加しない意向は 13 ポイント増加しており、参加しない意向がより強まっている。
- 「積極的に参加したい」=5、「できる範囲で参加したい」=4、「どちらともいえない」=3、「あまり参加したくない」=2、「参加したくない、参加しない」=1として参加意向を指数化すると、今回の調査では 2.7 と前回の 3.0 から減少している。
- 居住満足度の向上を目指すためには、住民の地域活動やボランティア活動への参加は不可欠であると考えられ、各種活動への参加を呼び掛けていく必要がある。



	今回		前回	
	N	%	N	%
1 積極的に参加したい (→Q17-1へ)	19	2.2	24	3.0
2 できる範囲で参加したい (→Q17-1へ)	240	28.0	259	32.2
3 どちらともいえない (→Q17-1へ)	190	22.2	226	28.1
4 あまり参加したくない	242	28.2	199	24.7
5 参加したくない、参加しない	158	18.4	72	8.9
無回答	8	0.9	25	3.1
全体	857	100.0	805	100.0

- 地域活動やボランティア活動への参加意欲を年齢別にみると、20歳代前半以下の若年層と50歳以上から60歳代前半までの意欲が高くなっている。逆に70歳以上の高齢者層の意欲が低くなっている。
- 指数化してみると、10歳代が3.1、50歳代後半が3.0と高く、70歳以上は2.3と低くなっている。

地域・ボランティア 年齢	全体	積極的に参加 したい	できる範囲で参 加したい	どちらともいえ ない	あまり参加した くない	参加したくない、 参加しない
全体	857	19	240	190	242	158
	100.0	2.2	28.0	22.2	28.2	18.4
18歳～19歳	33	4	11	7	6	5
	100.0	12.1	33.3	21.2	18.2	15.2
20歳～24歳	67	1	24	16	13	13
	100.0	1.5	35.8	23.9	19.4	19.4
25歳～29歳	61	1	18	13	18	11
	100.0	1.6	29.5	21.3	29.5	18.0
30歳～34歳	72	3	19	24	14	12
	100.0	4.2	26.4	33.3	19.4	16.7
35歳～39歳	107	3	31	24	26	23
	100.0	2.8	29.0	22.4	24.3	21.5
40歳～44歳	84	0	24	22	20	18
	100.0	0	28.6	26.2	23.8	21.4
45歳～49歳	126	0	32	31	48	15
	100.0	0	25.4	24.6	38.1	11.9
50歳～54歳	25	0	9	4	7	5
	100.0	0	36.0	16.0	28.0	20.0
55歳～59歳	27	1	11	5	7	3
	100.0	3.7	40.7	18.5	25.9	11.1
60歳～64歳	40	1	14	7	13	5
	100.0	2.5	35.0	17.5	32.5	12.5
65歳～69歳	58	2	14	16	18	6
	100.0	3.4	24.1	27.6	31.0	10.3
70歳以上	151	3	30	21	50	41
	100.0	2.0	19.9	13.9	33.1	27.2

- 地域活動やボランティア活動への参加意欲を職業別にみると、公務員と学生の意欲が高くなっている。逆に農業者や経営者等、無職の方の意欲が低くなっている。
- 指数化してみると、公務員と学生が3.1と高く、農業が2.3、無職や経営者等が2.5と低くなっている。

地域・ボランティア 職業	全体	積極的に参加し たい	できる範囲で参 加したい	どちらともいえな い	あまり参加したく ない	参加したくない、 参加しない
全体	857	19	240	190	242	158
	100.0	2.2	28.0	22.2	28.2	18.4
農業	25	0	5	1	14	4
	100.0	0	20.0	4.0	56.0	16.0
経営者、会社役員、 自営業	57	0	15	8	21	11
	100.0	0	26.3	14.0	36.8	19.3
会社員・団体職員 (正規雇用)	260	7	71	67	66.0	49.0
	100.0	2.7	27.3	25.8	25.4	18.8
派遣・契約社員、 パート、アルバイト	156	1	42	36	55	21
	100.0	0.6	26.9	23.1	35.3	13.5
公務員	51	2	21	14	7	7
	100.0	3.9	41.2	27.5	13.7	13.7
学生	65	5	24	16	11	9
	100.0	7.7	36.9	24.6	16.9	13.8
無職	207	4	52	43	59	46
	100.0	1.9	25.1	20.8	28.5	22.2
1～7以外	31	0	9	5	7	9
	100.0	0	29.0	16.1	22.6	29.0

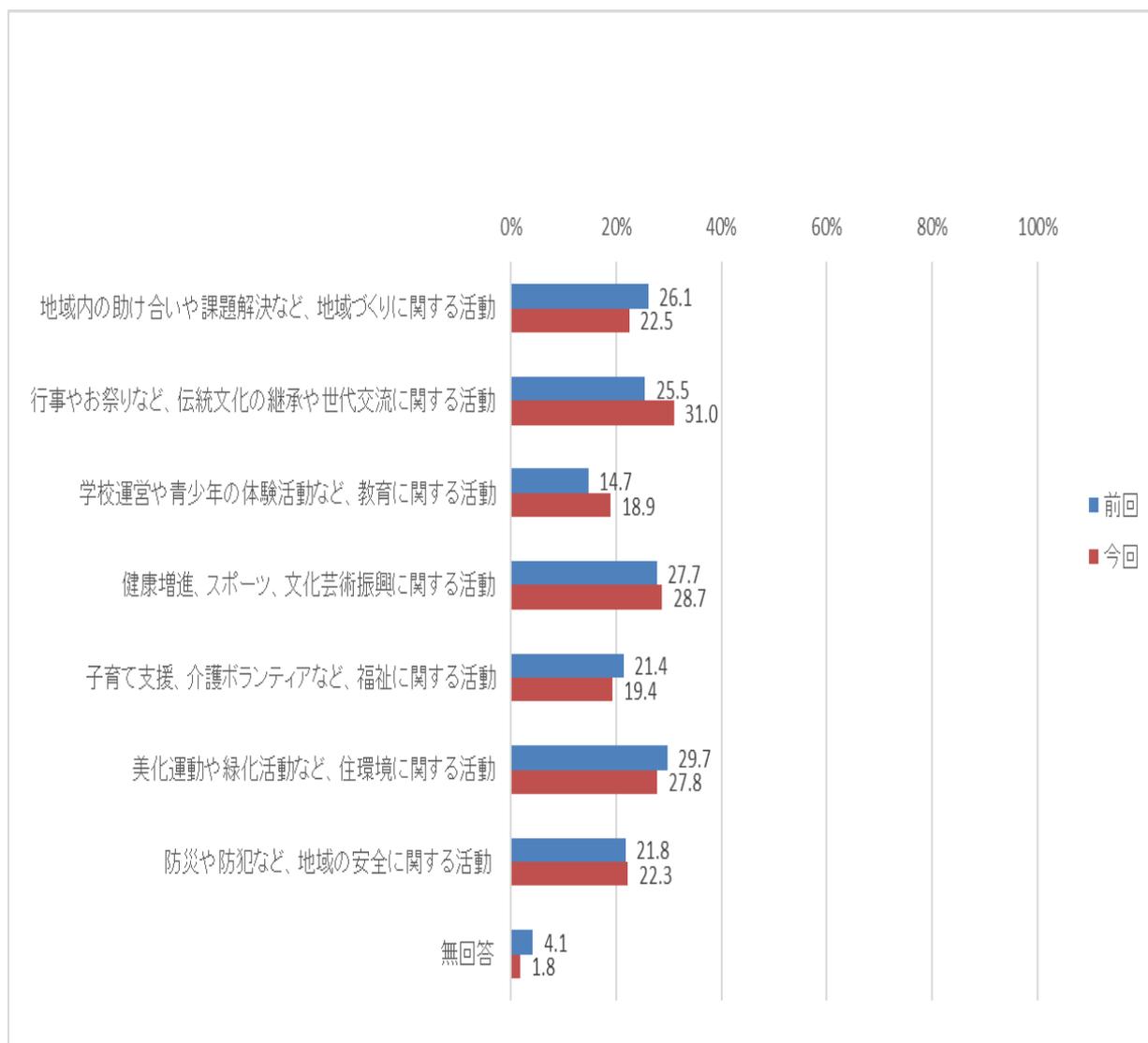
- 地域活動やボランティア活動への参加意欲を居住地別にみると、ハツ保や三保谷では意欲が高くなっている。逆に中山（市街化調整区域）や伊草（市街化区域）では意欲が低くなっている。
- 指数化してみると、ハツ保や三保谷が2.9と高く、中山（市街化調整区域）や伊草（市街化区域）が2.5と低くなっている。

地域・ボランティア 居住地	全体	積極的に参加し たい	できる範囲で参 加したい	どちらともいえな い	あまり参加したく ない	参加したくない、 参加しない
全体	857	19	240	190	242	158
	100.0	2.2	28.0	22.2	28.2	18.4
中山(市街化区域)	191	6	55	43	55	30
	100.0	3.1	28.8	22.5	28.8	15.7
中山(市街化調整区 域)	64	0	15	14	20	14
	100.0	0	23.4	21.9	31.3	21.9
伊草(市街化区域)	185	3	41	40	59	39
	100.0	1.6	22.2	21.6	31.9	21.1
伊草(市街化調整区 域)	51	1	17	13	11	9
	100.0	2.0	33.3	25.5	21.6	17.6
三保谷	91	3	32	18	29	9
	100.0	3.3	35.2	19.8	31.9	9.9
出丸	90	1	27	19	24	19
	100.0	1.1	30.0	21.1	26.7	21.1
ハツ保	78	4	27	19	13	15
	100.0	5.1	34.6	24.4	16.7	19.2
小見野	78	0	21	20	20	15
	100.0	0	26.9	25.6	25.6	19.2

問 17-1 問 17で「1～3」に○をつけた方のみお答えください。次のうち、どのような活動をしたいですか。（主なもの2つまでに○）

- 地域やボランティア活動への参加意向がある方のうち、やってみたい活動については「行事やお祭りなど、伝統文化の継承や世代交流に関する活動」が31.0%と最も高いものの、「健康増進、スポーツ、文化芸術振興に関する活動」が28.7%、「美化活動や緑化活動など、住環境に関する活動」が27.8%と同じような水準で続いている。全体的に回答が分散しているといえよう。

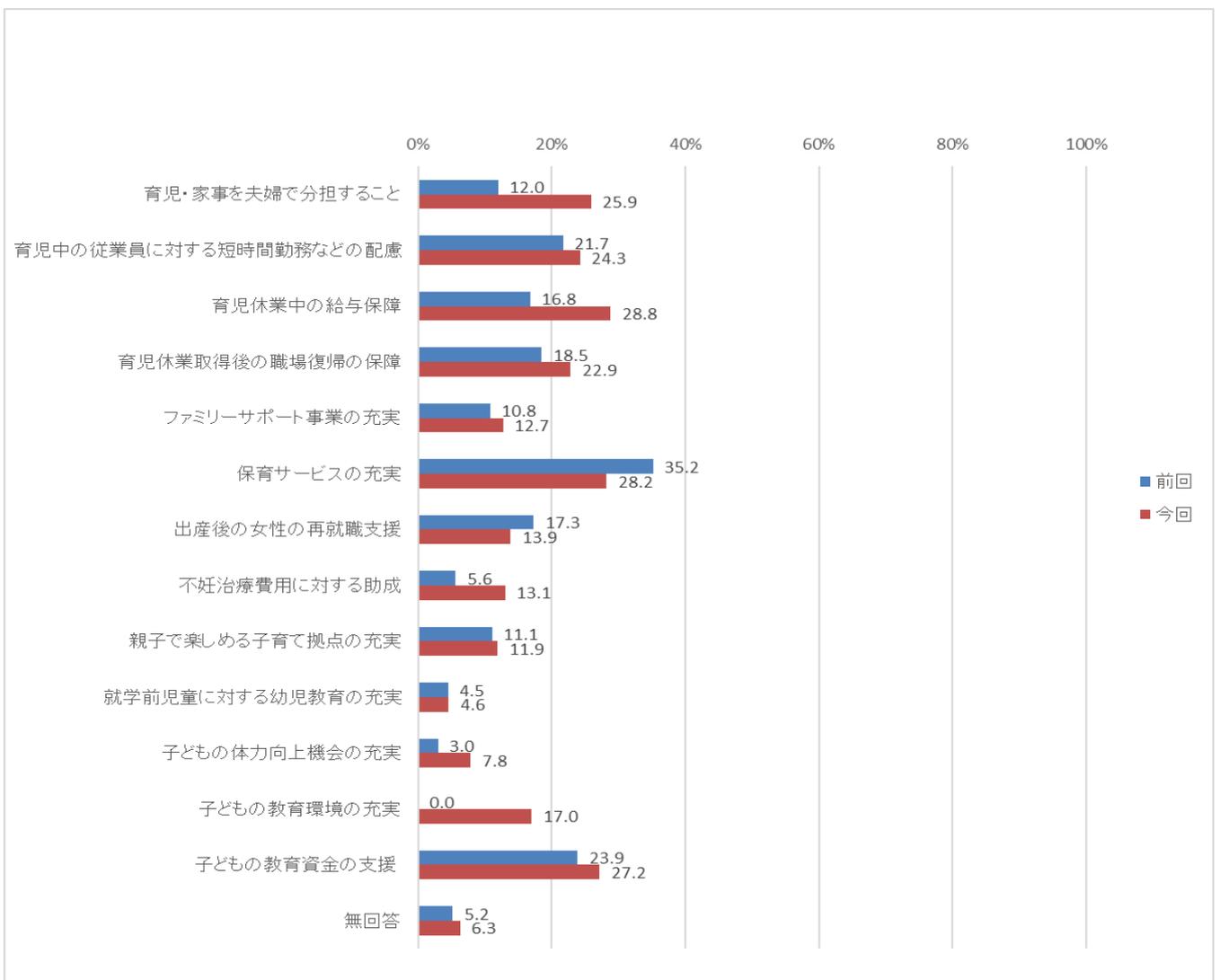
- 前回と比較すると「行事やお祭りなど、伝統文化の継承や世代交流に関する活動」が6ポイント増えている以外は、大きな変動は確認できない。



		今回		前回	
		N	%	N	%
1	地域内の助け合いや課題解決など、地域づくりに関する活動	101	22.5	133	26.1
2	行事やお祭りなど、伝統文化の継承や世代交流に関する活動	139	31.0	130	25.5
3	学校運営や青少年の体験活動など、教育に関する活動	85	18.9	75	14.7
4	健康増進、スポーツ、文化芸術振興に関する活動	129	28.7	141	27.7
5	子育て支援、介護ボランティアなど、福祉に関する活動	87	19.4	109	21.4
6	美化運動や緑化活動など、住環境に関する活動	125	27.8	151	29.7
7	防災や防犯など、地域の安全に関する活動	100	22.3	111	21.8
	無回答	8	1.8	21	4.1
	全体	449	100.0	509	100.0

問 18 子育て支援・子育て環境の向上を進める上で、次のうち、どのような対策が効果的だと思いますか。（主なもの3つまでに○）

- 子育て支援・子育て環境の向上を進める上で、効果的だと思う対策については「育児休業中の給与保障」が28.8%と最も多いものの、「保育サービスの充実」が28.2%、「子どもの教育資金の支援」27.2%、「育児・家事を夫婦で分担すること」が25.9%と同水準で続いている。
- 前回と比較すると「育児・家事を夫婦で分担すること」が14ポイント、「育児休業中の給与保障」が12ポイント増えている。一方で「保育サービスの充実」が7ポイント減少している。
- 全般的には金銭支援が望まれているといえるが、親の意識や企業の配慮などを望む声も高まっているといえる。



	今回		前回	
	N	%	N	%
1 育児・家事を夫婦で分担すること	222	25.9	97	12.0
2 育児中の従業員に対する短時間勤務などの配慮	208	24.3	175	21.7
3 育児休業中の給与保障	247	28.8	135	16.8
4 育児休業取得後の職場復帰の保障	196	22.9	149	18.5
5 ファミリーサポート事業の充実	109	12.7	87	10.8
6 保育サービスの充実	242	28.2	283	35.2
7 出産後の女性の再就職支援	119	13.9	139	17.3
8 不妊治療費用に対する助成	112	13.1	45	5.6
9 親子で楽しめる子育て拠点の充実	102	11.9	89	11.1
10 就学前児童に対する幼児教育の充実	39	4.6	36	4.5
11 子どもの体力向上機会の充実	67	7.8	24	3.0
12 子どもの教育環境の充実	146	17.0		
13 子どもの教育資金の支援	233	27.2	192	23.9
無回答	54	6.3	42	5.2
全体	857	100.0	805	100.0

- 子育て中の方が多いと思われる30歳代のニーズを整理すると「子どもの教育資金の支援」が高く、「親子で楽しめる子育て拠点の充実」も全体に比べると高くなっている。
- その他、「不妊治療費用に対する助成」はやや年代の高い30歳代後半以降が高くなっている。
- 20歳代の若年層では「育児休業中の給与保障」や「出産後の女性の再就職支援」の割合が高くなっている。
- 子どものステージ（保育時期、義務教育通学時期、義務教育外通学時期等）によってニーズも異なっていると思われる。

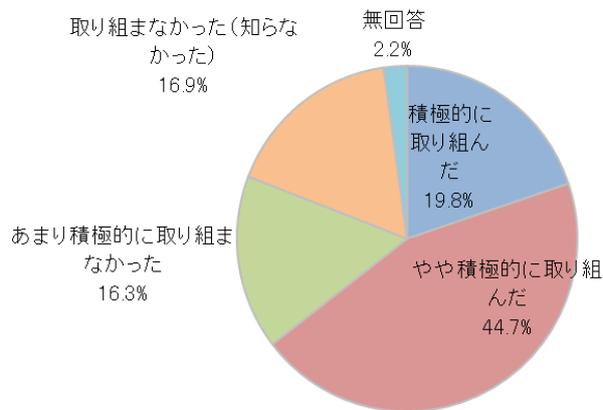
年齢	子育て 全体	育児・家事を夫婦で分担すること	育児中の従業員に対する短時間	育児休業中の給与保障	育児休業取得後の職場復帰の保障	ファミリーサポート事業の充実	保育サービスの充実	出産後の女性の再就職支援	不妊治療費用に対する助成	親子で楽しめる子育て拠点の充	就学前児童に対する幼児教育の	子どもの体力向上機会の充実	子どもの教育環境の充実	子どもの教育資金の支援
		N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N
全体	857	222	208	247	196	109	242	119	112	102	39	67	146	233
	100.0	25.9	24.3	28.8	22.9	12.7	28.2	13.9	13.1	11.9	4.6	7.8	17.0	27.2
18歳～19歳	33	11	5	15	8	5	8	3	2	2	1	1	9	14
	100.0	33.3	15.2	45.5	24.2	15.2	24.2	9.1	6.1	6.1	3.0	3.0	27.3	42.4
20歳～24歳	67	17	18	33	19	6	17	11	9	5	1	2	11	20
	100.0	25.4	26.9	49.3	28.4	9.0	25.4	16.4	13.4	7.5	1.5	3.0	16.4	29.9
25歳～29歳	61	20	16	28	10	10	20	12	7	2	4	1	8	21
	100.0	32.8	26.2	45.9	16.4	16.4	32.8	19.7	11.5	3.3	6.6	1.6	13.1	34.4
30歳～34歳	72	15	17	22	12	9	24	9	3	13	7	5	9	29
	100.0	20.8	23.6	30.6	16.7	12.5	33.3	12.5	4.2	18.1	9.7	6.9	12.5	40.3
35歳～39歳	107	32	27	25	18	11	27	10	22	20	2	15	22	36
	100.0	29.9	25.2	23.4	16.8	10.3	25.2	9.3	20.6	18.7	1.9	14.0	20.6	33.6
40歳～44歳	84	21	23	29	20	12	25	15	16	10	6	3	15	22
	100.0	25.0	27.4	34.5	23.8	14.3	29.8	17.9	19.0	11.9	7.1	3.6	17.9	26.2
45歳～49歳	126	32	25	30	20	15	41	11	19	19	6	18	25	42
	100.0	25.4	19.8	23.8	15.9	11.9	32.5	8.7	15.1	15.1	4.8	14.3	19.8	33.3
50歳～54歳	25	7	4	9	6	2	9	2	5	5	2	0	4	9
	100.0	28.0	16.0	36.0	24.0	8.0	36.0	8.0	20.0	20.0	8.0	0	16.0	36.0
55歳～59歳	27	6	4	11	8	7	7	3	2	3	1	0	4	6
	100.0	22.2	14.8	40.7	29.6	25.9	25.9	11.1	7.4	11.1	3.7	0	14.8	22.2
60歳～64歳	40	11	7	13	13	4	19	9	8	5	0	2	4	7
	100.0	27.5	17.5	32.5	32.5	10.0	47.5	22.5	20.0	12.5	0	5.0	10.0	17.5
65歳～69歳	58	15	14	7	19	10	17	11	4	6	4	6	9	8
	100.0	25.9	24.1	12.1	32.8	17.2	29.3	19.0	6.9	10.3	6.9	10.3	15.5	13.8
70歳以上	151	34	47	24	41	17	27	22	15	12	4	14	26	19
	100.0	22.5	31.1	15.9	27.2	11.3	17.9	14.6	9.9	7.9	2.6	9.3	17.2	12.6

- 年収別に子育て支援ニーズを見ると、比較的年収の低い層は「育児休業取得後の職場復帰の保障」や「ファミリーサポート事業の充実」へのニーズが高い。
- 一方で比較的年収の高い層は「子どもの教育資金の支援」や「育児休業中の給与保障」など金銭給付へのニーズのほか、「子どもの教育環境の充実」も高くなっている。

子育て 年齢	全体	育児・家事を夫	育児中の従業員	育児休業中の給	育児休業取得後	ファミリーサポ	保育サービスの	出産後の女性の	不妊治療費用に	親子で楽しめる	就学前児童に対	子どもの体力向	子どもの教育環	子どもの教育資
		婦で分担するこ	に対する短時間	与保障	の職場復帰の保	ト事業の充実	充実	再就職支援	対する助成	子育て拠点の充	する幼児教育の	上機会の充実	境の充実	金の支援
全体	857	222	208	247	196	109	242	119	112	102	39	67	146	233
	100.0	25.9	24.3	28.8	22.9	12.7	28.2	13.9	13.1	11.9	4.6	7.8	17	27.2
100万円未満	286	73	64	64	53	38	74	35	25	28	12	22	53	69
	100.0	27.4	24.1	24.1	19.9	14.3	27.8	13.2	9.4	10.5	4.5	8.3	19.9	25.9
100万円台	106	24	29	26	33	15	26	18	13	13	3	8	10	20
	100.0	22.6	27.4	24.5	31.1	14.2	24.5	17.0	12.3	12.3	2.8	7.5	9.4	18.9
200万円台	112	32	26	38	33	12	30	16	16	13	9	7	17	32
	100.0	28.6	23.2	33.9	29.5	10.7	26.8	14.3	14.3	11.6	8.0	6.3	15.2	28.6
300万円台	118	30	30	42	27	12	39	19	16	9	4	7	14	36
	100.0	25.4	25.4	35.6	22.9	10.2	33.1	16.1	13.6	7.6	3.4	5.9	11.9	30.5
400万円台	87	20	24	30	23	13	22	15	18	11	2	7	14	22
	100.0	23.0	27.6	34.5	26.4	14.9	25.3	17.2	20.7	12.6	2.3	8.0	16.1	25.3
500万円台	53	14	11	17	10	6	18	6	8	9	2	5	11	20
	100.0	26.4	20.8	32.1	18.9	11.3	34.0	11.3	15.1	17.0	3.8	9.4	20.8	37.7
600万円～900万円 台	69	20	12	19	12	9	24	7	12	9	6	6	14	22
	100.0	29.0	17.4	27.5	17.4	13.0	34.8	10.1	17.4	13.0	8.7	8.7	20.3	31.9
1,000万円以上	12	2	3	5	1	1	3	2	0	2	0	1	4	5
	100.0	16.7	25.0	41.7	8.3	8.3	25.0	16.7	0	16.7	0	8.3	33.3	41.7

問 19 町では、可燃ごみの減量化に平成 29 年度より取り組み、目標としていた 20%減量（平成 28 年度比）を達成しました。あなたは、どのくらい取り組みに参加しましたか（1つに○）

- ごみ減量化への取り組みへの参加については「やや積極的に取り組んだ」が 44.7%と最も多く、次いで「積極的に取り組んだ」が 19.8%、「取り組まなかった」が 16.9%、「あまり積極的に取り組まなかった」が 16.3%と続いている。
- 「積極的に取り組んだ」+「やや積極的に取り組んだ」が 64.5%と過半数を占めており、町民の多くが参加していたことが分かる。



		N	%
1	積極的に取り組んだ	170	19.8
2	やや積極的に取り組んだ	383	44.7
3	あまり積極的に取り組まなかった	140	16.3
4	取り組まなかった(知らなかった)	145	16.9
	無回答	19	2.2
	全体	857	100.0

- ごみ減量化への取り組みへの参加について年齢階層別にみると、50歳を境にそれ以上の年齢層になると積極的な取り組みの人が多くなり、それ以下では積極的な取り組みの人が少なくなっている。
- 特に多いのは60歳代後半であり、少ないのは20歳代前半になっている。
- これまで以上にごみ減量化を進めるためには、40歳代以下の年齢層が取り組めるような仕組み・仕掛けを考える必要がある。

ごみ減量化 年齢	全体	積極的に取り組 んだ	やや積極的に取 り組んだ	あまり積極的に 取り組まなかつ た	取り組まなかつ た(知らなかつ た)
全体	857	170	383	140	145
	100.0	19.8	44.7	16.3	16.9
18歳～19歳	33	6	10	5	11
	100.0	18.2	30.3	15.2	33.3
20歳～24歳	67	4	19	13	31
	100.0	6.0	28.4	19.4	46.3
25歳～29歳	61	5	23	12	21
	100.0	8.2	37.7	19.7	34.4
30歳～34歳	72	13	32	15	12
	100.0	18.1	44.4	20.8	16.7
35歳～39歳	107	16	52	21	18
	100.0	15.0	48.6	19.6	16.8
40歳～44歳	84	12	40	17	14
	100.0	14.3	47.6	20.2	16.7
45歳～49歳	126	21	56	24	25
	100.0	16.7	44.4	19.0	19.8
50歳～54歳	25	4	14	6	1
	100.0	16.0	56.0	24.0	4.0
55歳～59歳	27	12	7	5	2
	100.0	44.4	25.9	18.5	7.4
60歳～64歳	40	9	22	6	3
	100.0	22.5	55.0	15.0	7.5
65歳～69歳	58	21	29	3	1
	100.0	36.2	50.0	5.2	1.7
70歳以上	151	47	74	12	6
	100.0	31.1	49.0	7.9	4.0

- ごみ減量化への取り組みへの参加について職業別にみると、農業や経営者、公務員、無職の人には積極的な取り組みの人が多く、会社員や学生では積極的な取り組みの人が少なくなっている。
- 特に多いのは農業や経営者等であり、少ないのは学生になっている。

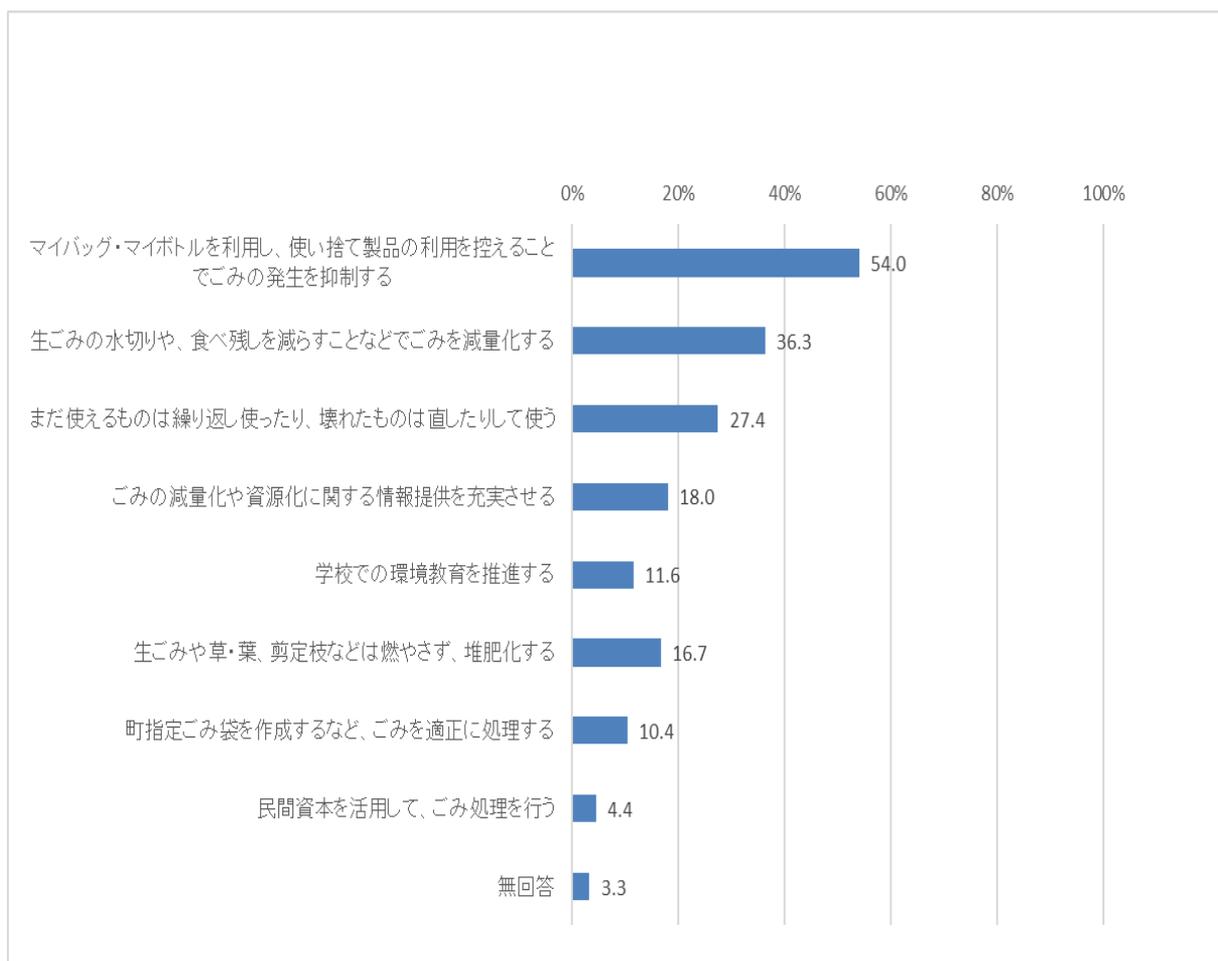
ごみ減量化 職業	全体	積極的に取り組 んだ	やや積極的に取 り組んだ	あまり積極的に 取り組まなかつ た	取り組まなかつ た(知らなかつ た)
全体	857	170	383	140	145
	100.0	19.8	44.7	16.3	16.9
農業	25	10	9	4	2
	100.0	40.0	36.0	16.0	8.0
経営者、会社役員、 自営業	57	16	30	7	2
	100.0	28.1	52.6	12.3	3.5
会社員・団体職員 (正規雇用)	260	33	91	65	69
	100.0	12.7	35.0	25.0	26.5
派遣・契約社員、 パート、アルバイト	156	28	81	21	23
	100.0	17.9	51.9	13.5	14.7
公務員	51	12	28	9	2
	100.0	23.5	54.9	17.6	3.9
学生	65	7	21	10	26
	100.0	10.8	32.3	15.4	40.0
無職	207	56	106	19	16
	100.0	27.1	51.2	9.2	7.7
1～7以外	31	7	13	5	5
	100.0	22.6	41.9	16.1	16.1

- ごみ減量化への取り組みへの参加について居住地別にみると、中山（市街化調整区域）やハツ保には積極的な取り組みの人が多く、出丸や伊草（市街化区域）には積極的な取り組みの人が少なくなっている。

居住地	ごみ減量化	全体	積極的に取り組んだ	やや積極的に取り組んだ	あまり積極的に取り組まなかった	取り組まなかった(知らなかった)
全体		857	170	383	140	145
		100.0	19.8	44.7	16.3	16.9
中山(市街化区域)		191	34	100	19	32
		100.0	17.8	52.4	9.9	16.8
中山(市街化調整区域)		64	19	24	10	9
		100.0	29.7	37.5	15.6	14.1
伊草(市街化区域)		185	31	83	34	33
		100.0	16.8	44.9	18.4	17.8
伊草(市街化調整区域)		51	13	21	7	10
		100.0	25.5	41.2	13.7	19.6
三保谷		91	17	41	20	11
		100.0	18.7	45.1	22.0	12.1
出丸		90	24	26	19	19
		100.0	26.7	28.9	21.1	21.1
ハツ保		78	16	37	12	11
		100.0	20.5	47.4	15.4	14.1
小見野		78	14	35	17	11
		100.0	17.9	44.9	21.8	14.1

問 20 ごみ処理施設の適正な運用のためには、更なるごみの減量化や資源化が必要です。あなたが必要だと思う取り組みは何ですか。（主なもの2つまでに○）

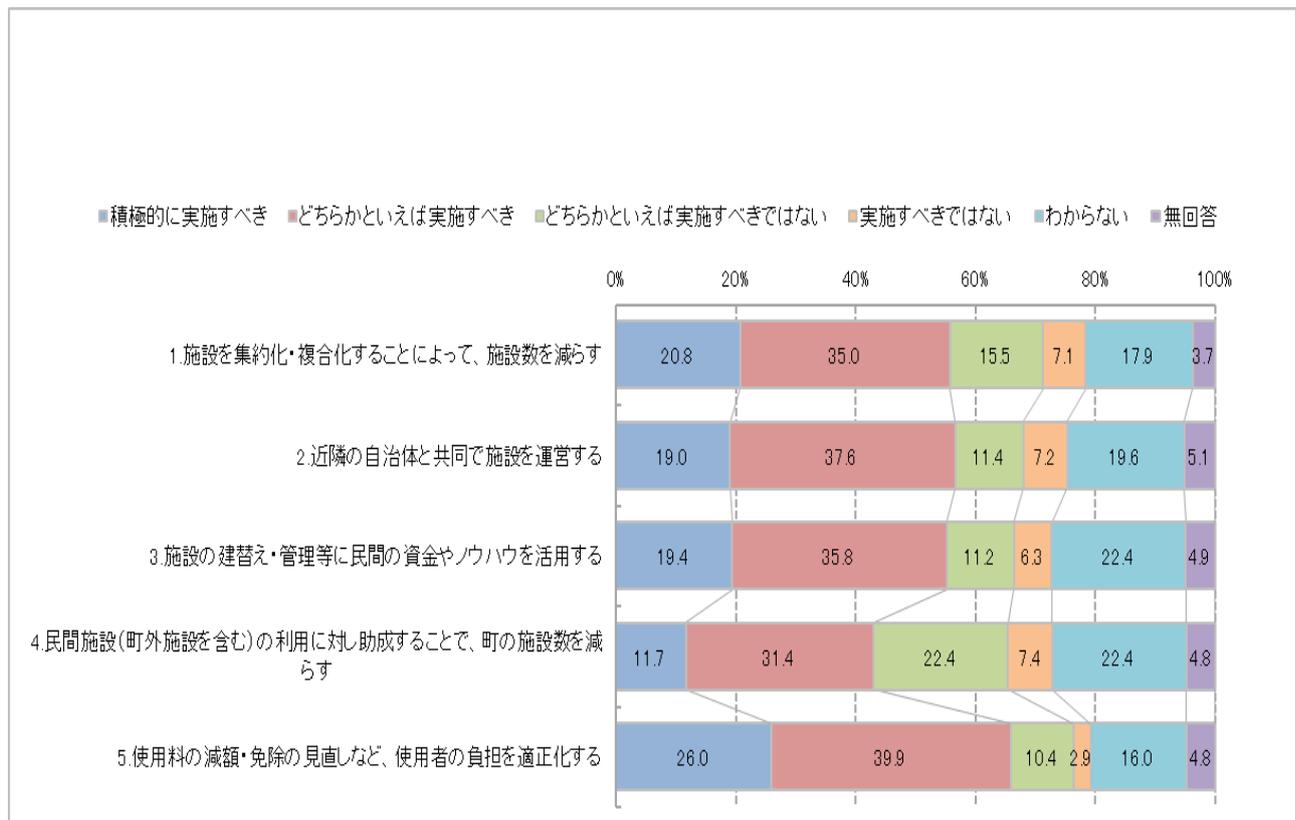
- ごみ減量化や資源への取り組みについては「マイバッグ・マイボトルを利用し、使い捨て製品の利用を控えることでごみの発生を抑制する」が54.0%と最も多く、次いで「生ごみの水切りや、食べ残しを減らすことなどでごみを減量化する」が36.3%、「まだ使えるものは繰り返し使ったり、壊れたものは直したりして使う」が27.4%と続いている。
- ごみ減量化を推進するためには、町民の積極的な行動が望まれているといえる。



		N	%
1	マイバッグ・マイボトルを利用し、使い捨て製品の利用を控えることでごみの発生を抑制する	463	54.0
2	生ごみの水切りや、食べ残しを減らすことなどでごみを減量化する	311	36.3
3	まだ使えるものは繰り返し使ったり、壊れたものは直したりして使う	235	27.4
4	ごみの減量化や資源化に関する情報提供を充実させる	154	18.0
5	学校での環境教育を推進する	99	11.6
6	生ごみや草・葉、剪定枝などは燃やさず、堆肥化する	143	16.7
7	町指定ごみ袋を作成するなど、ごみを適正に処理する	89	10.4
8	民間資本を活用して、ごみ処理を行う	38	4.4
	無回答	28	3.3
	全体	857	100.0

問 21 町では、人口減少や財政負担の縮減や平準化等の観点から、公共施設の総延床面積を 40 年間で 30%削減することを目標にしており、公共施設の課題解決に向け、様々な視点で取り組みを検討する必要があります。あなたは、これらの取り組みについてどう思いますか。（項目ごとに1つに○）

- 各項目への回答割合は以下の表のとおりであるが、全体的には「積極的に実施すべき」「どちらかといえば実施すべき」の回答割合が 50%超となっている項目が多い。（4.民間施設の利用に対し助成することで町の施設数を減らすは 43%程度）
- 町内の公共施設を建て替えたり、運営方法を見直したりすることへの抵抗は少ないようだが、数を減らすことにはやや抵抗感が強いのではないかとと思われる。



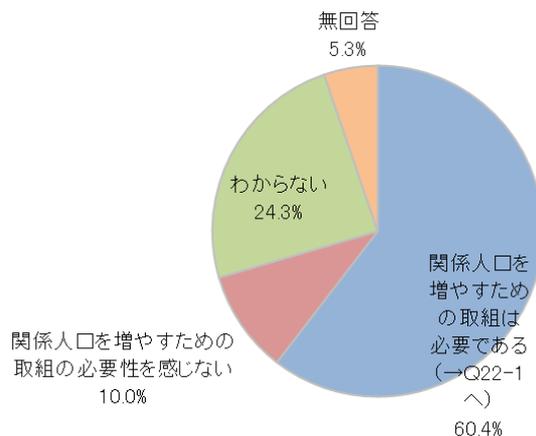
		全体	1	2	3	4	5	無回答
			積極的に実施すべき	どちらかといえば実施すべき	どちらかといえば実施すべきではない	実施すべきではない	わからない	
1	1.施設を集約化・複合化することによって、施設数を減らす	857	178	300	133	61	153	32
		100.0	20.8	35.0	15.5	7.1	17.9	3.7
2	2.近隣の自治体と共同で施設を運営する	857	163	322	98	62	168	44
		100.0	19.0	37.6	11.4	7.2	19.6	5.1
3	3.施設の建替え・管理等に民間の資金やノウハウを活用する	857	166	307	96	54	192	42
		100.0	19.4	35.8	11.2	6.3	22.4	4.9
4	4.民間施設(町外施設を含む)の利用に対し助成することで、町の施設数を減らす	857	100	269	192	63	192	41
		100.0	11.7	31.4	22.4	7.4	22.4	4.8
5	5.使用料の減額・免除の見直しなど、使用者の負担を適正化する	857	223	342	89	25	137	41
		100.0	26.0	39.9	10.4	2.9	16.0	4.8

- ここで各項目の意向を指数化するために、「積極的に実施すべき」＝4、「どちらかといえば実施すべき」＝3、「どちらかといえば実施すべきではない」＝2、「実施すべきではない」＝1として、回答割合で指数化したのが以下の表である。
- これを見ると、実施意向が最も高いのは「5.使用料の減額・免除の見直しなど、使用者の負担を適正化する」の3.12であり、最も低いのは「4.民間施設の利用に対し助成することで町の施設数を減らす」の2.65である。（それでも中間値の2.5（指数が1から4であるため指数の合計値は1＋2＋3＋4＝10、指数の数が4であるため中間値は10/4＝2.5）よりは高い。）

1.施設を集約化・複合化することによって、施設数を減らす	2.89
2.近隣の自治体と共同で施設を運営する	2.91
3.施設の建替え・管理等に民間の資金やノウハウを活用する	2.94
4.民間施設(町外施設を含む)の利用に対し助成することで、町の施設数を減らす	2.65
5.使用料の減額・免除の見直しなど、使用者の負担を適正化する	3.12

問22 町外に住む人々で、自分のお気に入り地域に週末に通ったり、頻繁に通わなくても、ふるさと納税をしたり、何らかの形でその地域を応援したい気持ちを持っている方々を「関係人口」と呼びます。関係人口を増やすことが、地域の活性化や人口減少対策のために必要であると考えられています。あなたは川島町の関係人口を増やすための取り組みが必要だと思いますか。（1つに○）

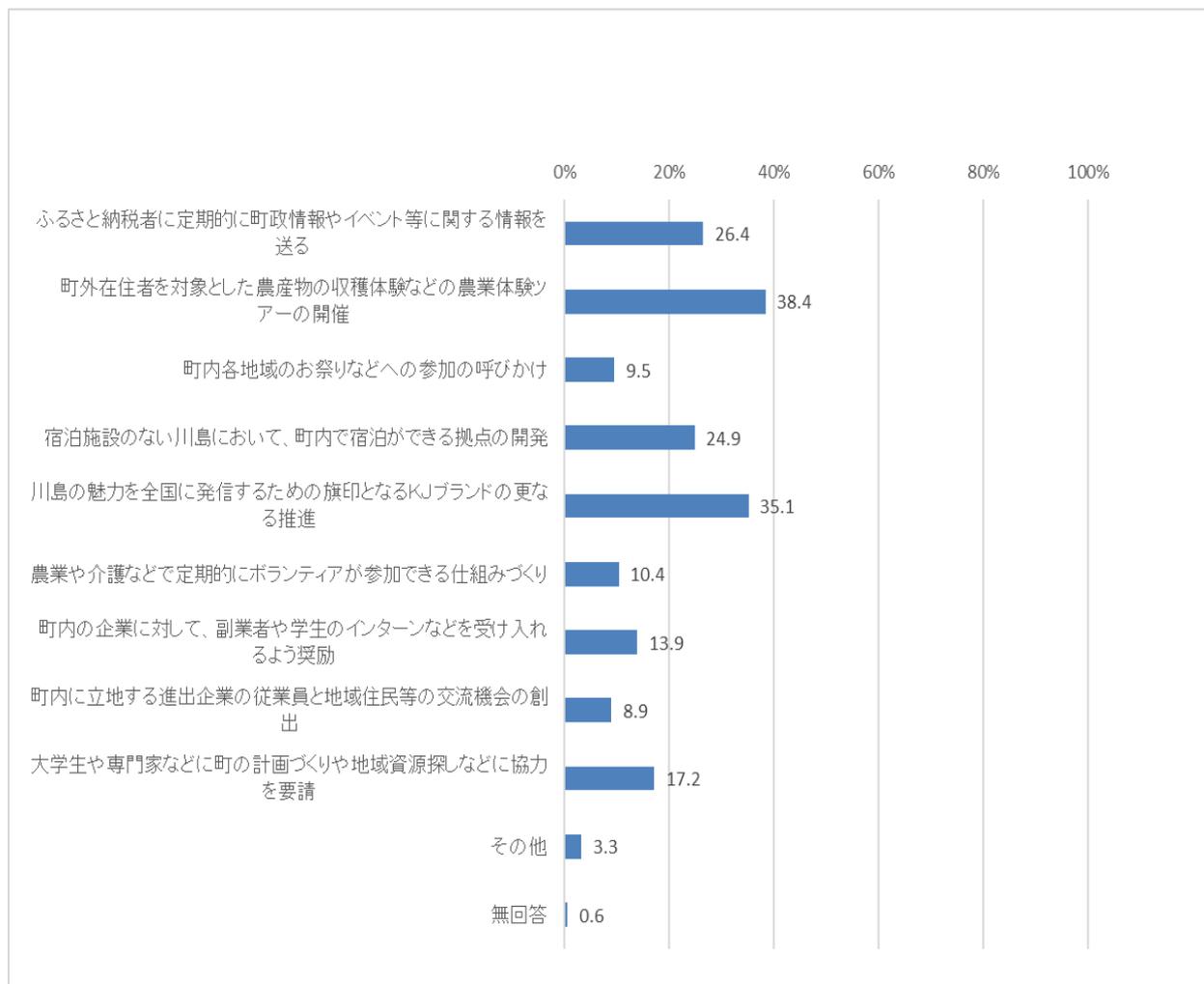
- 関係人口を増やすための取り組みの必要性については「関係人口を増やすための取組は必要である」との回答が60.4%と過半数が必要と認識を持っている。
- 「関係人口を増やすための取組の必要性を感じない」は10.0%にとどまっている。「わからない」の回答も24.3%と約1/4を占めている。



		N	%
1	関係人口を増やすための取組は必要である (→Q22-1へ)	518	60.4
2	関係人口を増やすための取組の必要性を感じない	86	10.0
3	わからない	208	24.3
	無回答	45	5.3
	全体	857	100.0

問 22-1 問 22 で「1 関係人口を増やすための取組は必要である。」に○をつけた方のみお答えください。関係人口を増やすためにどのようなことに力を入れると良いと思いますか。(主なもの2つまでに○)

- 関係人口を増やすための取り組みについては「町外在住者を対象とした農産物の収穫体験などの農業体験ツアーの開催」が38.4%と最も多く、次いで「川島の魅力を全国に発信するための旗印となるKJブランドの更なる推進」が35.1%、「ふるさと納税者に定期的に町政情報やイベント等に関する情報を送る」が26.4%、「宿泊施設のない川島において、町内で宿泊ができる拠点の開発」が24.9%と続いている。
- 主に観光面での取り組みが望まれているといえる。そのほか、「かわじま☆未来塾」のような大学生や専門家に協力を要請していくような取り組みも望まれている。



		N	%
1	ふるさと納税者に定期的に町政情報やイベント等に関する情報を送る	137	26.4
2	町外在住者を対象とした農産物の収穫体験などの農業体験ツアーの開催	199	38.4
3	町内各地域のお祭りなどへの参加の呼びかけ	49	9.5
4	宿泊施設のない川島において、町内で宿泊ができる拠点の開発	129	24.9
5	川島の魅力を全国に発信するための旗印となるKJブランドの更なる推進	182	35.1
6	農業や介護などで定期的にボランティアが参加できる仕組みづくり	54	10.4
7	町内の企業に対して、副業者や学生のインターンなどを受け入れるよう奨励	72	13.9
8	町内に立地する進出企業の従業員と地域住民等の交流機会の創出	46	8.9
9	大学生や専門家などに町の計画づくりや地域資源探しなどに協力を要請	89	17.2
10	その他	17	3.3
	無回答	3	0.6
	全体	518	100.0

(3) 自由記入欄 (12月中に整理予定)